構造設計標準仕様書

1．建築物の構造内容

（1）建築場所　大月市

（2）工事種別　(・)新築　・増築　・増改築　・改築

（3）構造設計一級建築士の関与　(・)必要　・必要としない

☐ 法第20条第一号（高さ60m超）

☑ 法第20条第二号（・RC高さ20m超・S造4階以上・木造高さ13m超(・)その他）

（4）構造種別

・木造（W）・補強コンクリートブロック造（CB）・鉄骨造（S）(・)鉄筋コンクリート造（RC）

・壁式鉄筋コンクリート造（WRC）・鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）・その他

（5）階数

地上（3）階　地下（0）階　塔屋（0）階

（6）主要用途　中学校

（7）屋上付属物

・高架水槽（　）KN　(・)ｷｭｰﾋﾞｸﾙ（49）kN　・広告塔　・煙突

（8）特別な荷重

・エレベータ　人乗（ﾏｼﾝﾙｰﾑﾚｽ　ﾛｰﾌﾟ・油圧）・ﾘﾌﾄ（　）KN　・ﾎｲｽﾄ（　）kN

・倉庫積載床用（　）N/m²　・受水槽（　）kN

（9）増築計画　・有（　）(・)無

（10）構造設計ルート　X方向ルート　3－（　）　Y方向ルート　3－（　）

2．使用建築材料表・使用構造材料表

（1）コンクリート（ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ　JIS Q1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）　（規格品ｺﾝｸﾘｰﾄ）

適用場所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質基準強度 Fq=N/mm²	スランプcm	備考	
捨コンクリート	普通	18	18	18	比重 2.3	調合強度 F=Fm+1.73σ F=0.85Fm+3σ 上記の大なる数値 Fm=Fq+mSn 28S9：3又は6(N/mm2)(予想平均温度による) Fq=MAX(Fc, Fd) Fd:耐久設計基準強度 標準 Fd = 24(N/mm2)
土間コンクリート（床）	普通	24	24	18	比重 2.3	
基礎・基礎梁	普通	30	30	18	比重 2.3	
柱・梁・床・壁	普通	30	30	18	比重 2.3	
ラップルコンクリート	普通	18	18	18	比重 2.3	
押えコンクリート	普通	18	18	18	比重 2.3	
細骨材の種類	(・)砂　・山砂　・人工　・					
粗骨材の種類	(・)砂利　・砕石　・人工　・					
水の区分	(・)水道水　・地下水　・工業用水　・					
混和材料の種類	(・)AE減水剤　・高性能AE減水剤　・　・					
呼び強度を保障する材齢	■ 材齢（(・)28日　・56日　・　）					
養生	■ 養生（・現場封かん　・現場水中(・)標準　・　）					

☐単位水量は185kg/m3以下、単位セメント量は270kg/m3以上とする。

（2）コンクリートブロック（JIS A 5406）

・A種　・B種　・C種　厚　・100　・120　・150　・190

（3）鉄筋

	種類	径	使用個所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G3112)	(・) SD295A	D16以下	柱・梁・床・基礎	(・)重ね継手（D16以下）
	・ SD295B			(・)ガス圧接継手（D19以上）
	(・) SD345	D19以上	柱・梁・基礎	・溶接継手
	(・) SD390	D29以上	柱	・機械式継手
高強度せん断補強筋	(・) 材種　異形ＰＣ鋼棒　σu=785		柱	（　）
	(・) 大臣認定番号　MSRB－各メーカーによる			
丸鋼（JIS G 3112）	・ SR235			
溶接金網（JIS G 3551）	・ 6φ150			

（4）鉄骨

規格名称	鋼材種類	現場溶接
一般構造用圧延鋼材	(・)SS400　・SNR400B（ﾌﾞﾚｰｽ）	・有(・)無
溶接構造用圧延鋼材	・SM400A　・SM490A	・有　・無
建築構造用圧延鋼材	・SN400A(・)SN400B　・SN490B　・SN490C（ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ）	・有(・)無
一般構造用角型鋼管	・STKR400　・STKR490	・有　・無
冷間成形角型鋼管	・BCR295　・BCR235　・BCR325　大臣認定品　MSRB-	・有　・無
一般構造用炭素鋼管	(・)STK400　・BCR235　・BCR325	・有(・)無
一般構造用軽量形鋼	(・)SSC400	・有(・)無

（5）ボルト

(・)高力ボルト	トルシア型高力ボルト	S10T	
	JIS B 1186 高力ボルト	F10T	トルシア型が使用できない部分
	溶融亜鉛メッキ高力ボルト	F 8T	母材が亜鉛メッキされている部分
(・)普通ボルト	JIS B 1180	4.8(4T)	全般

(・)アンカーボルト　☐ 材質　・SS400　・SS490（M以上）(・)SNR400　・SNR490（M以上）／☐ 大臣認定品（メーカー仕様による）・使用する(・)使用しない

・頭付スタッドボルト

径	長さ	19φ	・80　・100　・120　・150
16φ	・80　・100　・120　・150	22φ	・100　・120　・150

（6）屋根、床、壁

材種	型式　厚　その他	使用個所	仕様・構法
ＡＬＣ(JIS A 5416)	厚	・壁　・床版	・ｽﾗｲﾄﾞ　・ﾎﾞﾙﾄ止　・ﾛｯｷﾝｸﾞ
折板	H＝　厚	屋根	
特殊ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ(JIS G3552)	型式　厚	床版	
ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ(JIS G3552)	型式　厚	床版	
ｷｰｽﾄﾝﾌﾟﾚｰﾄ(JIS G3552)	型式　厚	床版	

3．地盤

（1）地盤調査資料と調査計画

(・)有（(・)敷地内　・近隣）　・無

調査項目	資料有	調査計画	調査項目	資料有	調査計画	調査項目	資料有	調査計画
ボーリング調査	◯		静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質調査			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
ｽｳｪｰﾃﾞﾝ式ｻｳﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中資料の有るもの、調査計画の有るものに○を記入

（2）ボーリング標準貫入値、土質構成

深度（調査ﾎﾟｲﾝﾄ）	土質	N値	標準貫入試験 10　20　30　40　50	ボーリング名
調査レベル				孔口標高
			地盤調査図参照	○孔内水位
5.0				
10.0				
15.0				
20.0				
25.0				
30.0				

注）地盤調査および試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4．地業工事

（1）直接基礎

・ベタ基礎　・布基礎(・)独立基礎　試験掘(・)有　・無

※ 特別教室棟2個所　普通教室棟3個所以上

深さＧＬ－1.6～2.9ｍ　支持層　－玄武岩

長期設計地耐力　400　ＫＮ／ｍ²（載荷試験　・有(・)無）

（2）地盤改良　注）建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする

・浅層混合処理工法　・深層混合処理工法　・

深さＧＬ－　ｍ　支持層　－　砂礫混じり玉石

長期設計地耐力　ＫＮ／ｍ²（載荷試験　・有　・無）

（3）杭基礎　支持層　－

杭種	材料	施工法
☐ RC ☐ PRC ☐ PHC ☐ H鋼 ☐ 鋼管 ☐ 摩擦杭 ☐ SC杭 ☐	PRC（☐Ⅰ種 ☐Ⅱ類 ☐Ⅲ種） PHC（☐Ａ種 ☐Ｂ種 ☐Ｃ種） 鋼材 ☐SS400 ☐SKK400 JIS ☐	☐ 打ち込み ☐ 埋込み(セメントミルク工法) ☐ ☐
☐ 国土交通大臣認定品		
☐ 場所打ち コンクリート杭	ｺﾝｸﾘｰﾄ Fc N／mm² ｺﾝｸﾘｰﾄ Fq N／mm² ｽﾗﾝﾌﾟ cm以下 ｾﾒﾝﾄ量 kg／mm³ 単位水量 kg／mm³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	☐ ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ ☐ 拡底杭 ☐ ﾘﾊﾞｰｽｻｰｷｭﾚｰｼｮﾝ ☐ ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ ☐ ﾐﾆｱｰｽ ☐ ＢＨ ☐ 深礎（☐手掘 ☐機械掘）

杭仕様　☐ 施工計画承認　☐ 杭施工結果報告書

試験杭　（基礎伏図参照）

杭径（mm）	設計支持力（KN）	先端深さ（ｍ）	本数	備考

5．鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリート設計基準強度（Fc）が 36 N/mm²以下に適用し
鉄筋の材種は SD390 以下に適用する。

（1）コンクリート

(・) コンクリートは JIS A 5308（ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ）に適合するJIS認定工場の製品とし施工に関しては標準図に記載されている事項を除きJASS 5による。

(・) 耐久設計基準強度　Ｆｄ　(・)一般　・標準　・長期

(・) セメントはJIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

(・) 調合計画は、工事着手前に工事管理者の承認を得ること。

(・) 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打込養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

(・) フレシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（ｶﾗｰ）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、一日一回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

(・) 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験方法は、JASS 5T-603によることとし供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量150m3を超える場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当たり６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。

(・) ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置に出来るだけ近付けて垂直に打ち、コンクリート自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。
なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間の限度は、外気温２５℃未満の場合１５０分、２５℃以上の場合は１２０分以内とする。

(・) コンクリート打込み中及び打ち込後５日間は、コンクリートの温度が２度を下らないようにする。

(・) 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結および硬化が妨げられないように養生を行う。

（2）鉄筋

(・) 鉄筋は、ＪＩＳ Ｇ３１１２の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に　JASS5 による。

(・) 高強度せん断補強筋は、JISG3137に規定されるＤ種１号適合品とする。

(・) 鉄筋の加工方法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは『鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)』または、『壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準』による。

(・) 鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手位置等の設計条件による仕様・投球 (1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位（*注） A級	B級	SA級	鉄筋の径
(・)重ね継手	☑40d ☐35d ☐（　）d	＼	＼	＼	・D（16）以下
(・)圧接継手	(・)告示1463号第2項各号	☑	＼	＼	・D（19）以上
・溶接継手	・告示1463号第3項各号	☐	☐	＼	・D（　）以上
・機械式継手	・告示1463号第4項各号	☐	☐	☐	・D（　）以上

（*注）（1）以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書(2007)』によって検討した部位の条件・仕様によること。

(・) D19未満は、すべて重ね継手とする。

(・) 継手部分の施工要領は　社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法（外観検査）(・)有　・無（引張試験）・有(・)無（超音波）(・)有　・無
ガス圧接部分の検査を超音波深傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し1回の試験は　5 本以上とする。（1ﾛｯﾄは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200箇所程度とする）

(・) 柱の帯筋（HOOP）の加工方法は、(・)Ｈ型（ﾀｶﾞ型）・Ｗ型（溶接型）・Ｓ型（ｽﾊﾟｲﾗﾙ型）とする。

(・) コンクリート及び鉄筋の試験は公的試験機関で行うこと。

（3）型枠

(・) 材料　合板厚１２m/mを標準とする。　(・) 施工　JASS 5　による。

(・) 型枠存置期間

存置期間＼セメントの種類＼平均気温（種類・部位）	せき板 基礎、はり側、柱、壁 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	スラブ下、はり下 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	支柱 スラブ下 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	はり下 早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント
コンクリートの材令（日） 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0Ｎ／mm²		設計基準強度の５０％		設計基準強度の ８５％		１００％

注）1　片持はり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）2　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材またはこれに代わるものを置く。
注）5　支柱の盛りかえは、小ばりが終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）6　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
注）7　支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6．鉄骨工事（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は、指示が無い限り下記による。

(・) 日本建築学会『ＪＡＳＳ ６』『鉄骨精度検査基準』『鉄骨工事技術指針』

(・) 社)鋼材倶楽部　『建築鉄骨工事施工指針』

(・) 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（2）工事監理者の承認を必要とするもの。

(・) 製作工場　(・) 製作要領書　(・) 工作図　(・) 施工計画書

(・) 認定グレード（国土交通省大臣）［ S ｜ H ｜ M ｜ (R) ｜ J ］

(・) 材料規格証明書または試験成績表　（鋼材　高力ボルト　特殊ボルト　頭付スタッド）

※ 社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート

(・) 社内検査表

（3）工事監理者が行う検査項目。（○項目以外は検査結果を工事監理者に報告すること）

(・) 原寸検査　(・) 組立、開先検査　(・) 製品検査　(・) 建方検査　・

（4）接合部の溶接は下記によること。

(・) 平成12年建設省告示第1464号第二号　イ、ロ

(・) 日本建築学会「溶接工作基準 同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

(・) 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

・ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱

（5）接合部の検査

・ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査個所	検査方法		検査率または検査数 工場自主検査	第三者超音波探傷検査	工事監理者
☑完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観目視（※）		100 %	試験は2回抜取りとする 試験箇所数の数え方はJASS6 [溶接箇所数の数え方]に準ずる <平均出検品質限界(AOQL)> (・)4%　・2.5% <検査水準> ・第1　・第2　・第3　・第4　・第5(・)第6	3 %
	超音波探傷試験		100 %		承認 %
☐	内質検査	・硬さ試験	%		%
		・示温塗料塗布	%		%
	ﾏｸﾛ試験・その他		個		個
☐	外観目視（※）		%	%	%
第三者検査機関名	未定				
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

外観目視（※）　平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視および計測）

注）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波検査を100%行うこと。

(・) 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

軸力導入試験　・要(・)否　高力ボルトすべり係数試験　・要(・)否

＊ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。

＊ トルシア型高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

（6）防錆塗装

(・) 防錆塗装の範囲は、高力ボルトの摩擦面、コンクリート及び耐火吹付で被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは　・JIS K5621　・JIS K5625　・　・
を使用して、4つ星 2回塗りを標準とするが、実情に応じて決定すること。

(・) 現場における高力ボルト等の接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

（7）耐火被覆の材料

☑

7．設備関係

(・) 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。

(・) 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。

(・) 建築物に設ける屋上から突出する水槽・煙突・その他これに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。

・ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。

(・) 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に保持されていること。

・ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。

(・) 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。

(・) 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上とする。

8．その他

(・) 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

(・) 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

(・) 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

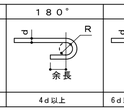
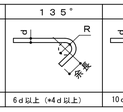
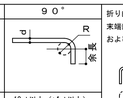
ｄ・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　Ｄ・・部材の成　　Ｒ・・直径

@・・間隔　ｒ・・半径　℄・・中心線　Ｌ０・・部材間の内法距離　ｈ０・・部材間の内法高さ

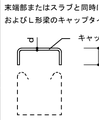
ＳＴ・・あばら筋　ＨＯＯＰ・・帯筋　Ｓ．ＨＯＯＰ・・補強帯筋　φ・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	１８０°	１３５°	９０°
図			
鉄筋の余長	4ｄ以上	6ｄ以上（*4ｄ以上）	10ｄ以上（*4ｄ以上）

折り曲げ角度９０°はスラブ筋・壁筋末端部またはスラブと同時に打ち込むＴ形およびＬ形梁のキャップタイにのみ用いる

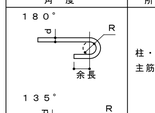


*片持スラブ上端筋の先端

折り曲げ内法寸法Ｒは、SR235～SD345の径16及びＤ16以下は3d以上、SD295～SD345のＤ19～Ｄ38は4ｄ以上、Ｄ41およびSD390は5d以上。スラブ筋、壁筋には丸鋼は使用しない。

（２）鉄筋中間部の折曲げの形状

折曲げ角度	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法（Ｒ）
１８０° １３５° ９０°	柱・梁・基礎の主筋	ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５	Ｄ１６以下	３ｄ以上
			Ｄ１９～Ｄ２５	６ｄ以上
			Ｄ２９～Ｄ４１	８ｄ以上
		ＳＤ３９０	Ｄ２９～Ｄ４１	８ｄ以上
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁筋	ＳＲ２３５ ＳＲ２９５ ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５	Ｄ１６(φ)以下	３ｄ以上
			Ｄ(φ)１９～Ｄ２５	４ｄ以上
			Ｄ２９～Ｄ４１	６ｄ以上
		ＳＤ３９０	Ｄ２９～Ｄ４１	６ｄ以上



（３）鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ 一般（Ｌ２）	定着の長さ 下端筋（Ｌ３） 小梁	定着の長さ 下端筋（Ｌ３） 床・屋根スラブ	特別の定着及び重ね継手長さ（Ｌ１）
SR235	21,24	35dフック付	25ｄﾌｯｸ付	150mmﾌｯｸ付	35dフック付
	18以下	45dフック付			45dフック付
SD295A SD295B	27～36	30ｄまたは20ｄﾌｯｸ付	25ｄ　または 15ｄ　ﾌｯｸ付	10ｄ　かつ 150mm以上	35ｄまたは25ｄﾌｯｸ付
	21,24	35ｄまたは25ｄﾌｯｸ付			40ｄまたは30ｄﾌｯｸ付
SD345	18以下	40ｄまたは30ｄﾌｯｸ付			45ｄまたは35ｄﾌｯｸ付
SD390	27～36	35ｄまたは25ｄﾌｯｸ付			40ｄまたは30ｄﾌｯｸ付
	21,24	40ｄまたは30ｄﾌｯｸ付			45ｄまたは35ｄﾌｯｸ付

[注] 許容応力度設計、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は梁主筋の柱への定着は　40ｄ　とする。

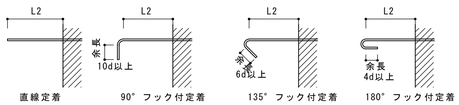
定　着

１）フック付のL2は仕口面から鉄筋の折り曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない

２）耐圧スラブの下端筋の定着長さは、一般定着（L2)とする

３）フックの折り曲げ内法直径及び余長は、特記のない場合は（1）、（2）による

４）柱梁接合部内に折り曲げ定着する梁主筋を柱せいの3/4倍以上のみ込ませてもフック付き定着長さ（L2）が確保できない場合は、柱せいの3/4倍ののみ込みを保ちながら、表のL2（フック付）の2/3倍を下回らない範囲内で定着長さを短くした長さを余長に加えてよい



継　手

１）末端のフックは定着および重ね継手の長さに含まない

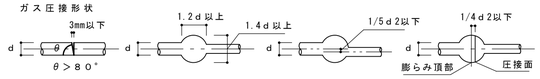
２）継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

３）直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

４）Ｄ２９以上の鉄筋は、重ね継手としてはならない（溶接・機械式継手とする）

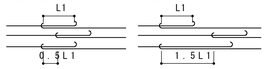
５）鉄筋径の差が７ｍｍを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



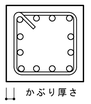
圧接継手

重ね継手（下図のいずれかとする）



（４）かぶり厚さ（単位mm）

ひびわれ誘発目地など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する



部位			かぶり厚さ	最小かぶり厚さ
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	３０	２０
		屋外	４０ 1)	３０（２０）
	柱・梁	屋内	４０	３０
	耐力壁	屋外	５０ 2)	４０ 1)（３０）
	擁壁		５０ 3)	４０
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁		５０	４０ 4)
	基礎・擁壁		７０	６０ 4)

注）１）耐久上有効な仕上げのある場合、係員の承認を受けて３０ｍｍとすることができる

２）耐久上有効な仕上げのある場合、係員の承認を受けて４０ｍｍとすることができる

３）コンクリートの品質および施工方法に応じ、係員の承諾を受けて、４０ｍｍとすることができる

４）軽量コンクリートの場合は１０ｍｍ増しの値とする

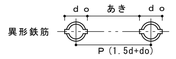
５）（　）内は仕上げがある場合

６）土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打増しとする。

（５）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値１．５ｄ以上

粗骨材の最大寸法の１．２５倍以上かつ２５以上



（６）鉄筋のフック　（ａ～ｆに示す鉄筋の末端にはフックを付ける）

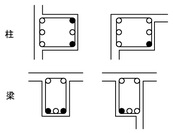
ａ．丸鋼　ｂ．あばら筋、帯筋　ｃ．煙突の鉄筋

ｄ．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

ｅ．単純梁の下端筋

ｆ．その他、本配筋標準に記載する箇所

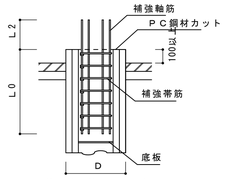
注）●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



３．杭　（地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること）

（１）ＰＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う

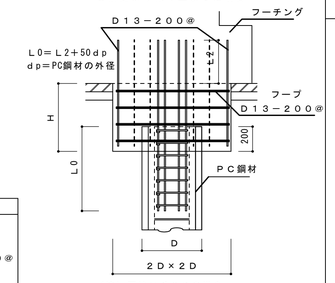
● 杭頭所定の位置



杭頭補強筋の径、本数

杭径	補強軸筋	補強帯筋
３００φ	６－Ｄ１３	Ｄ１０－１５０@
３５０φ	６－Ｄ１３	
４００φ	８－Ｄ１３	
４５０φ	１０－Ｄ１３	
５００φ	８－Ｄ１６	
６００φ	１０－Ｄ１６	

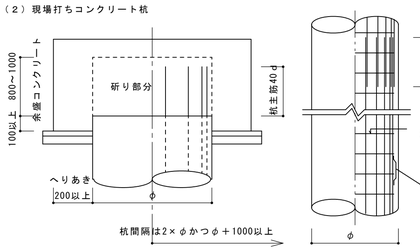
● 所定より低く止まった場合



（注）図はＨ≦２Ｄの場合。

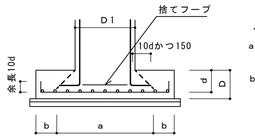
Ｈ＞２Ｄの場合は構造係員の指示による。

（２）現場打ちコンクリート杭



４．基礎

（１）直接基礎



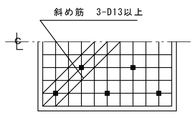
ベース筋

ａ＝Ｄ１+2ｄの範囲

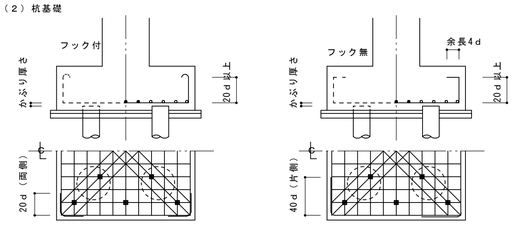
主筋間隔は200以下

ｂの範囲

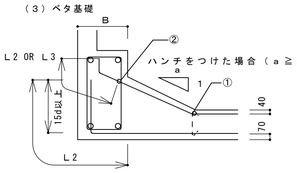
主筋間隔の1.5倍かつ300以下



（２）杭基礎



（３）ベタ基礎



１．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう

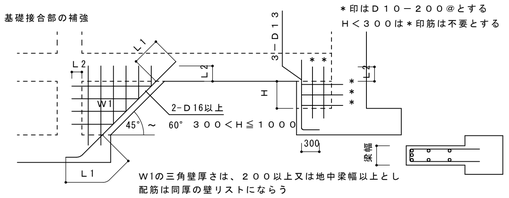
但し上筋と下筋を読みかえる

２．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

３．②の鉄筋はＤ１３以上

４．埋戻し土のある場合は４０を７０とする

（４）基礎接合部の補強



＊印はＤ１０－２００@とする

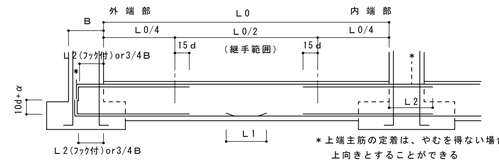
Ｈ＜３００は＊印筋は不要とする

W1の三角壁厚さは、２００以上又は地中梁幅以上とし配筋は同厚の壁リストにならう

５．地中梁

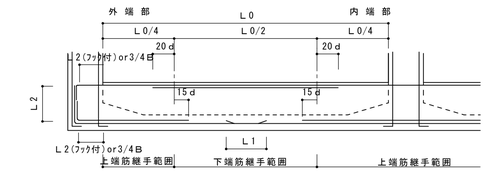
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は7.(2)大梁継手位置とする）　※αは投影長でL2に不足する長さを示す

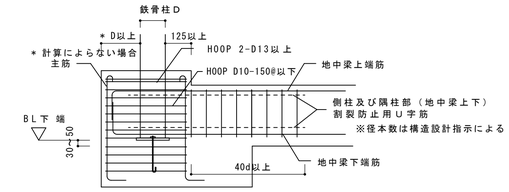


＊上端主筋の定着は、やむを得ない場合上向きとすることができる

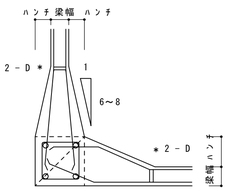
（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



（３）小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



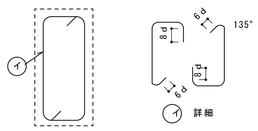
（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



＊　一般のあばら筋と同様のものを２本束ねる

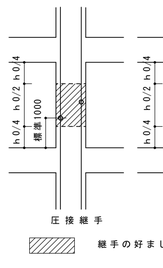
（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

Ｄ：１５００を超える場合



６．柱

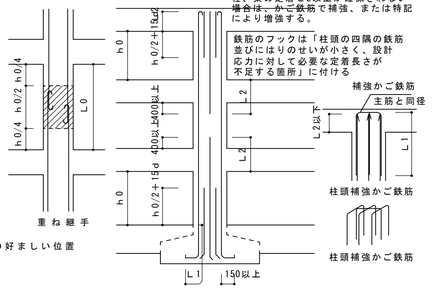
（１）柱主筋の継手



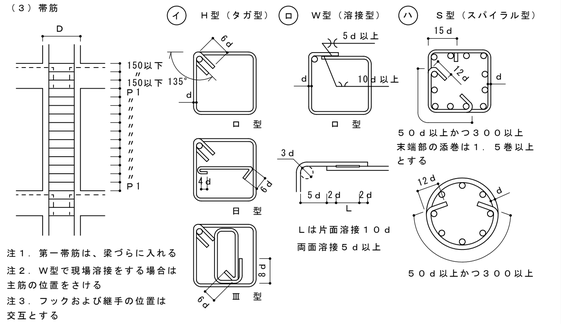
（２）柱主筋の定着

柱、梁の定着Ｌ2以上が確保されない場合は、かご鉄筋で補強、または特記により増強する。

鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、設計応力に対して必要な定着長さが不足する箇所」に付ける



（３）帯筋



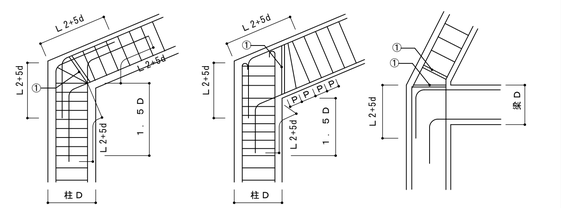
注１．第一帯筋は、梁づらに入れる

注２．Ｗ型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける

注３．フックおよび継手の位置は交互とする

（４）斜め柱・斜め梁

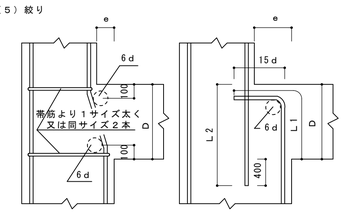
○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　　○柱幅と斜材幅が異なる　　○柱脚で斜材となる



注１．１．５Ｄの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@１００以下とする

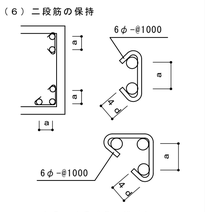
注２．①の鉄筋は2-D13かる、２本の一段太い鉄筋とする

（５）絞り



e≦D／6　　e＞D／6

（６）二段筋の保持



a＝1.5×（呼び名の数値）

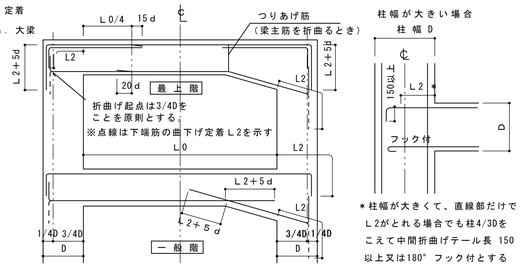
特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）		一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村 一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 N.S 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 鉄筋コンクリート構造標準配筋図（1）	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

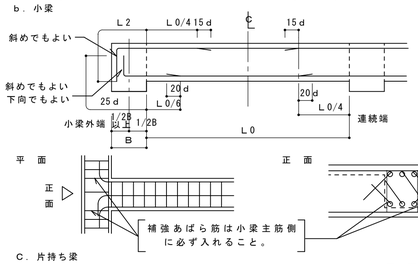
７． 大梁、小梁、片持梁

（１）定着

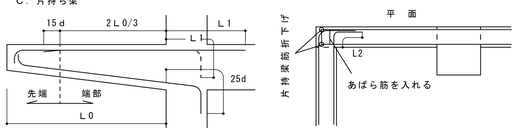
ａ．大梁



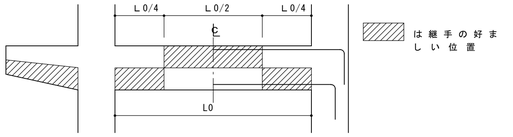
ｂ．小梁



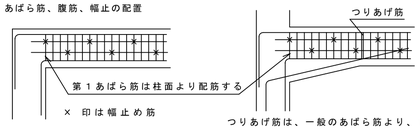
Ｃ．片持ち梁



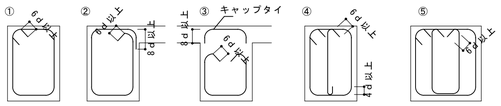
（２）大梁主筋の継手



（３）あばら筋、腹筋、幅止の配置



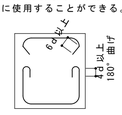
（４）あばら筋の型　　（注、床版がない場合は１３５° 以上のフックとする）



（イ） 原則として①のフック先曲げとする。片側床版付（Ｌ型）梁で②、
両側床版付（Ｔ型梁）で③又は④とすることができる。

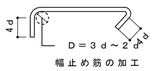
（ロ） フックの位置は①にあっては交互、②にあってはスラブ側とする。

⑥
梁成の大きい場合や
SRC造のあばら筋のおさまり
に使用することができる。



（５）幅止め筋の本数、加工

梁せい	腹　筋	幅 止 め 筋
Ｄ＜600	不要	Ｄ10(9φ)@1000以内で割り付ける
600≦Ｄ＜900	２－Ｄ１０(9φ)（１段）	
900≦Ｄ＜1200	４－Ｄ１０(9φ)（２段）	
1200≦Ｄ	Ｄ１０(9φ)@３００以内	

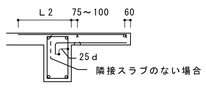


幅止め筋の加工

８． 床版

（１）定着および継手

ａ）片持床スラブ

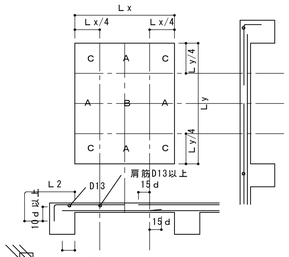


継手位置は原則として下表による。

標準継手位置

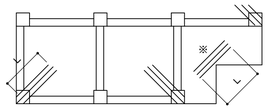
上端筋	短 辺 方 向	Ｂ
	長 辺 方 向	Ｂ
下端筋	短辺・長辺方向	Ａ　Ｃ

ｂ）一般床スラブ

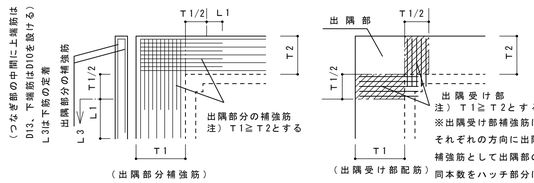


ａ）補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径
でＬ=1500とし、上端筋の下に配筋する
ｂ）※箇所（入隅）は各階補強する

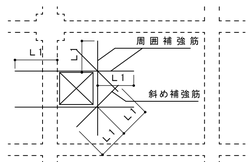
（２）屋根スラブの補強

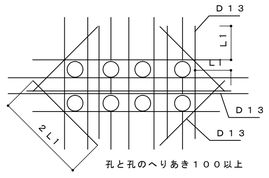


（３）片持ちスラブ出隅部補強　　注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



（４）床開口部の補強（開口の径500程度の場合）

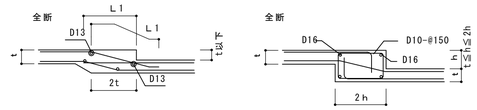




床板厚さＤ	周　囲	斜　め
Ｄ≦150	各２－Ｄ１３	各１－Ｄ１３
150＜Ｄ≦200	各２－Ｄ１３	各２－Ｄ１３
200＜Ｄ≦300	各２－Ｄ１９	各２－Ｄ１６

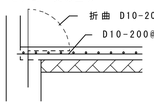
注）設備の小開口が連続してあく場合
は縦、横、斜補強筋とは別に開口
によって切られる鉄筋と同じ鉄筋
を開口を避けて補強する。

（５）床板段差

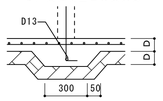


（６）土間コンクリート

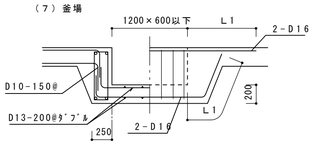
ａ）軽作業の土間



ｂ）間仕切壁との交叉部



（７）釜場



（８）打継ぎ補強（ダメ穴打継面について）

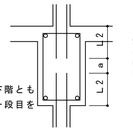
・設計配筋間隔の１／２ピッチ　長さ２Ｌ1以上

・無筋部分D10-200@　長さ800以上

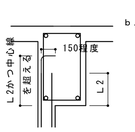
９． 壁

（１）定着

ａ．梁に



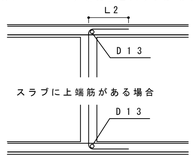
横筋の配置は上下階とも
梁、又は床面に一段目を
配置する。

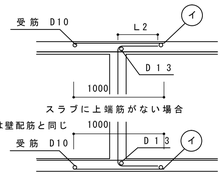


ｂ．柱に（平面的）

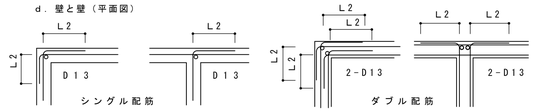
縦筋は、柱面に
一本目を配置する

ｃ．床に　　（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

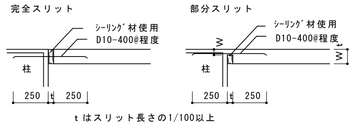




ｄ．壁と壁（平面図）



（２）スリット部（設計図に記入のない時）

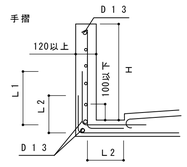


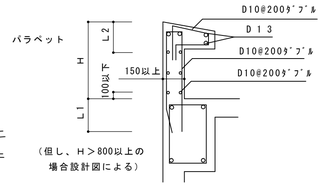
W≦D／6、Wt／2
かつ７cm

スリット部の鉄筋の被り厚さは
２－（４）かぶり厚さの表、最小
かぶり厚さ以上とする。

ｔはスリット長さの1/100以上

（３）手摺、パラペット

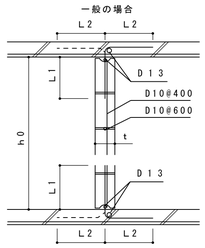




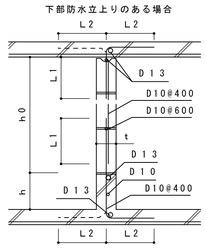
（但し、Ｈ＞800以上の
場合設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



下部防水立上りのある場合

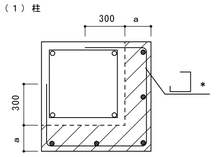


注）h0≦２５ｔかつ３５００以下とする。但し直交方向２５ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、２００≦ｈ≦４００
注）継手部は必ずモルタルをてん充すること

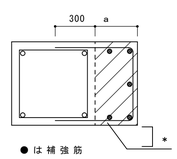
１０． 柱、梁打増コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、および工事監理者と打ち合わせのこと　）

（１）柱



ハッチ部分は増打コンクリートを示す



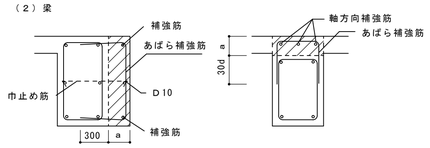
● は補強筋

ハッチ部分の面積Ａｃｍ²
補強タテ筋

Ａ＜500	500≦Ａ＜1000	1000≦Ａ＜1500
３－Ｄ１６	４－Ｄ１６	６－Ｄ１６

※ 柱と同径、同ピッチとする

（２）梁



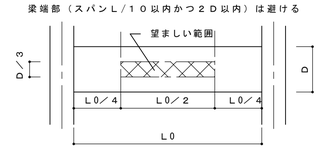
・ 軸方向補強筋は梁主筋の１段落とし径（Ｄ１６以上）とする。
・ あばら補強筋は　梁と同径、同ピッチとする。
・ 腹筋Ｄ１０ピッチは　梁の腹筋と合わせる。
・ Ｄ≧４００の場合は補強筋を３本とする。
・ ａは１００～２００程度。
・ 梁下端打ち増しコンクリートの場合も上端コンクリート打ち増しコンクリート補強と同様とする。
・ ハッチ部分は打ち増しコンクリートを示す。

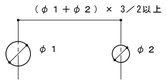
１１． 梁貫通孔補強

（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンＬ／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける

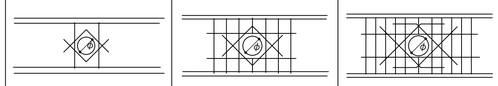




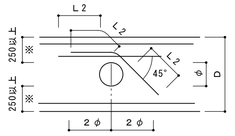
貫通孔が連続して間隔等が取れない
場合は設計者又は工事監理者と打合
せのこと。

（２）鉄筋標準配筋　　但しφ≦Ｄ／３とする

８０≦φ≦１００	１００＜φ≦１５０	１５０＜φ≦２５０
折　筋　２－（２－Ｄ１３） 縦　筋　ST ２－Ｄ１３	折　筋　２－（２－Ｄ１３） 縦　筋　ST ２－Ｄ１３－１００@ 横　筋　２－（２－Ｄ１３）	斜　筋　４－（２－Ｄ１３） 縦　筋　ST ２－Ｄ１３－１００@ 横　筋　２－（２－Ｄ１３） 上下縦筋　ST ２－Ｄ１３



孔補強の有効範囲と
定着長さの取り方



2φ：スターラップ補強範囲

※部分について計算で
確認された場合は右
記の位置、寸法によ
らなくてよい。

（３）既製品（使用する際には、設計者又は工事監理者と打ち合わせのこと）

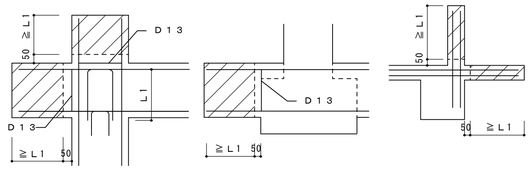
ウェブレン、ダイヤレン　等　日本建築センター評定取得品とする。
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評定取得品については計算書を提出すること。

☐ リング型　☐ パイプ型　☐ 金網型　☐ プレート型

１２． 増筋予定

（将来増筋予定のコンクリート増打ち部分は、増筋時鉄筋継手工法を考慮して措置する）

（１）柱、梁　　（２）地中梁　　（３）床版、壁



鉄骨構造標準図 （1）

1．一般事項

（1） 材料及び検査

（a） 構造設計仕様による
（b） 適用範囲は，鋼材を用いる工事に適用し，かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
（c） 社内検査結果の検査報告書には，鉄骨の寸法，精度及びその他の結果を添付する

（2） 工作一般

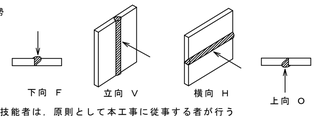
（a） 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
（b） 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は，鋼管自動切断機による
（c） 高張力鋼の歪み矯正は，冷間矯正とする

（3） 高力ボルト接合

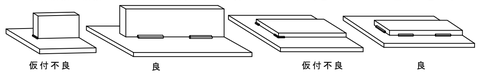
（a） 本締めに使用するボルトと，仮締めボルトの併用はしてはならない
（b） 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤サビ状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μmRx以上である場合は赤さび発生しないままでよい。
（c） 高力ボルト締め付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締め付け順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（4） 溶接接合

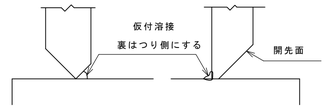
（a） 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。
（b） 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801（手溶接）又はJISZ3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き，半年以上溶接に従事している者とする
（c） 溶接機器
（イ） 交流アーク溶接機 300A-500A　（ニ） 炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ロ） アークエアーガウジング機（直流）　（ホ） 溶接電流を測定する電流計
（ハ） サブマージアーク溶接機１式　（ヘ） 溶接棒乾燥器
（d） 溶接方法
アーク手溶接（ＭＣ）　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）
（e） 溶接姿勢



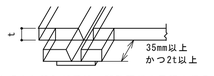
（f） 組立溶接技能者は，原則として本工事に従事する者が行う
（イ） 仮付位置
仮付溶接は溶接の始，終端，隅角部など強度上，工作上，問題となりやすい箇所は避ける



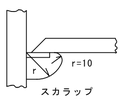
（ロ） 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



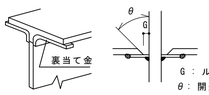
（g） 溶接施工
（イ） エンドタブ
Ⅰ）突合せ溶接，部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
Ⅱ）エンドタブの材質は，母材と同質とする
Ⅲ）エンドタブの長さは，ＭＣ：35mm以上
ＮＧＣ，ＧＣ：40mm以上とし特記のない場合は，溶接終了後，母材より10mm程度残し切断してグラインダー仕上げとする



Ⅳ）ブレス鋼板タブ，固形タブ使用については，資料を提出し設計者又は工事監理者の承認を得る
（ロ） 裏当て金
材質は母材と同質以上とし厚さは手溶接で6mm，半自動溶接で9mm以上，巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
（ハ） スカラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアールとする。
但し、梁成が D=150mm未満の場合のスカラップは r=20mmとする。



（ニ） ノンスカラップ工法



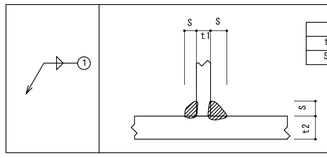
（ホ） 裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て，溶接監理者の確認を励行し，部材に確認マークを付ける
（ヘ） 現場溶接の開先面には，溶接に支障のない防錆材を塗布する．また，開先部をいためないように，養生を行う．

（5） 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で，コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は，塗装をしない

2． 溶接基準図

（注） f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長　（単位mm）

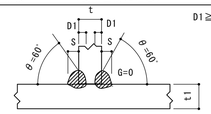
（1） 隅肉溶接



t≦16mm				
t	7以下	8-10	11-13	14-16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt1,t2の小なる方とする
余盛は(1+0.1S)mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

（2） 部分溶込み溶接　（使用箇所に注意）

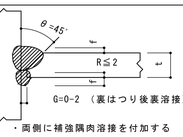


D1≧t/3　t/4≦S≦10mm
t≦t1

t	t>16mm
溶接姿勢	F．V

・両側に補強隅肉溶接を付加する

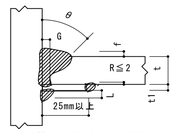
（3） 突合せ溶接　（平継手，Ｔ形継手）



f=t/4

t	6<t<19mm
溶接姿勢	F．V

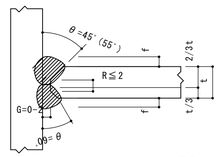
G=0-2 （裏はつり後裏溶接）
・両側に補強隅肉溶接を付加する　ＡＡＧ



f=t/4

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t≦12	45	6	6	5	45	6	9	5
12<t≦16	35	9	9	8	45	6	9	8
16≦t	35	9	9	8	35	9	9	8
溶接姿勢	F．V							

・補強隅肉溶接を付加する



f=t/4

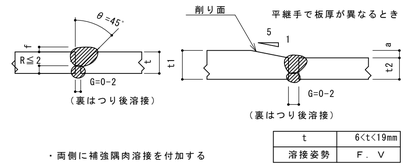
Ｔ形突合せ継手余盛

のど厚tmm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
t>19	4

ＡＡＧ（）内はＧＣでＦ．Ｈの場合
・両側に補強隅肉溶接を付加する

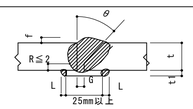
t	t≧19mm
溶接姿勢	F．V

f≧0.5mm （但し，t≧15mmのとき4mmとする）　a>4mmの場合



t	6<t<19mm
溶接姿勢	F．V

・両側に補強隅肉溶接を付加する

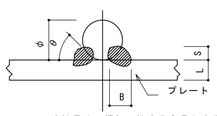


f=t/4

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t≦12	45°	6	6	5	45°	6	9	5
12≦t≦19	45°	9	9	5	45°	6	9	5
t>19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F．V							

（4） フレアー溶接

K形の場合

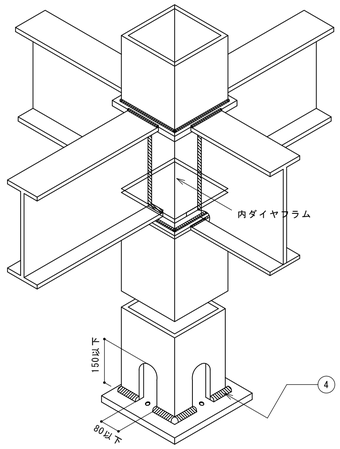


寸法(mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

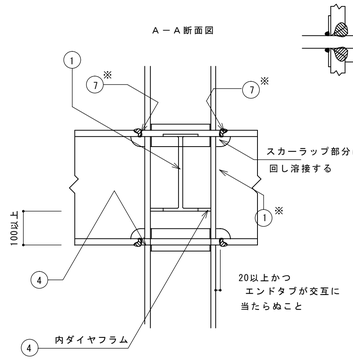
・フレアー溶接長は，鋼板に接する全長とする
・9mm-16mmは１パス以上，19mm以上は２パス以上とする
溶接棒角度θは30°-40°とする

○ 溶接記号番号

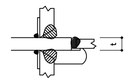
● ＢＯＸ型 （通しダイヤフラムの場合）



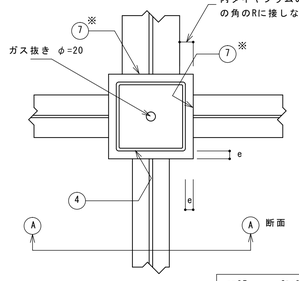
Ａ－Ａ断面図



⑦※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。



平面詳細



e=25	ft≦16
e=1.5×ft	ft>16

ftは　梁フランジ厚

① ※ t>16mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

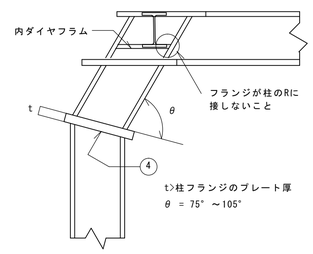
ダイヤフラム厚は接合する柱、梁の最大厚の2サイズアップとすること。
<柱材料 ： BCR295、BCR325を使用する場合>
ダイヤフラムは柱フランジ厚 16mm未満の場合　SN490C　SN490B
厚 16mm以上の場合　SN490C　を使用する。

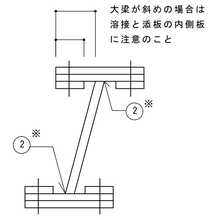
● 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱(KJ/cm)	パス温度差(°C)
400Ｎ級	JIS Z3211,3212,3214	40以下	350以下
	YGW-11,15		
	YGW-18,19		
	YGA-50W,50P		
490Ｎ級	JIS Z3212,3214	40以下	350以下
	YGW-11,15	30以下	250以下
	YGW-18,19	40以下	350以下
	YGA-50W,50P		

注）STKR,BCR,BCP材は JIS Z 3312 のみ使用可
「構造設計特記仕様　6.鉄骨工事(2)ロ認定または登録工場」のグレード別に定められた適応範囲と溶接条件制限事項による

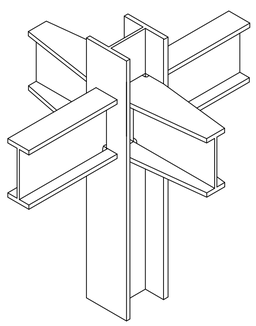
● 柱途中で折れる場合
及　梁成が異なる場合

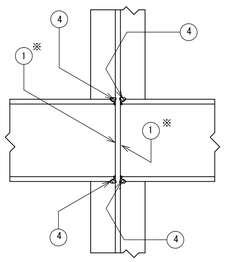




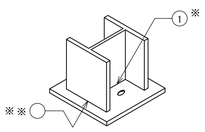
② ※ t>16mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

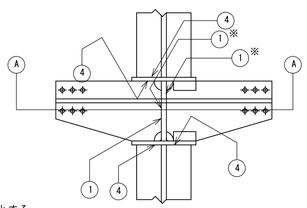
● Ｂ．Ｈ方式





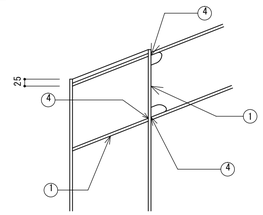
Ａ－Ａ 断面図

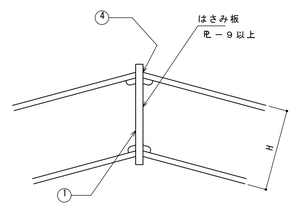




平面詳細

● Ｈ型





① ※ t>16mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。
※※ ◯ 印は設計者が記入すること。

特記事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村 一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888 TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 N.S	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事
訂正事項	構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二						設計年月日 2012.3	図面名 鉄骨構造標準図（1）
	（一級建築士　第219268号）							

意匠 / 構造 / 電気 / 衛生 / 空調

No. S-04

鉄骨構造標準図 （２）

３． 継手規準図，その他

（１） ボルト接合 ＨＴＢ

○トルクコントロールボルトの場合はメーカーの規格による。

（ ）内Ｆ１０Ｔ

HTB	締め付け長さに加える長さ
M16	25 以上 (30)
M20	30 以上 (35)
M22	35 以上 (40)
M24	40 以上 (45)

○ＨＴＢは基本的にＳ１０Ｔを使用し、スベリ係数は０．４５とする。

○ボルト接合面の処理
締め付け摩擦面は母材に於いては平グラインダー掛け、スプライスプレートに於いてはショット掛けを行ない、黒皮を除去し一様に赤さびを生じさせる。

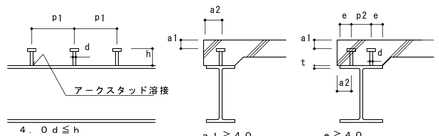
○本締めに使用するボルトと仮締めボルトの併用はしてはならない

（２） 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトピッチ（Ｐ） ボルト穴径・最小縁端距離 単位mm

呼び		ボルト穴径	最小縁端距離 (e) （１）	（２）	（３）	(2)(3)の標準	ピッチ（Ｐ） 最小	標準
	M16	18.0	40	28	22	40	40	60
	M20	22.0	50	34	26	40	50	60
	M22	24.0	55	38	28	40	55	60
	M24	26.0	60	44	30	45	60	70
アンカーボルト（）内はボルトを示す	M16	21(16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25(20.5)		34	26	(40)	(45)	(60)
	M22	27(22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29(24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	32		54	40			
	M34以上	呼び径+5		9d/5	4d/3			

「注」 （１） 引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２） せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３） 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上げ縁の場合の縁端距離

（３） 頭付きスタッド （JIS1198）

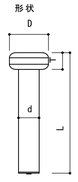


４．０ｄ≦ｈ
７．５ｄ≦ｐ１≦６００
５．０ｄ≦ｐ２

ａ１≧４０
ａ２≧１００

ｅ≧４０
ｄ≦２．５ｔ
ｈ，ｐ１ ，ｐ２ は設計図書による。

スタッド材の標準形状・寸法

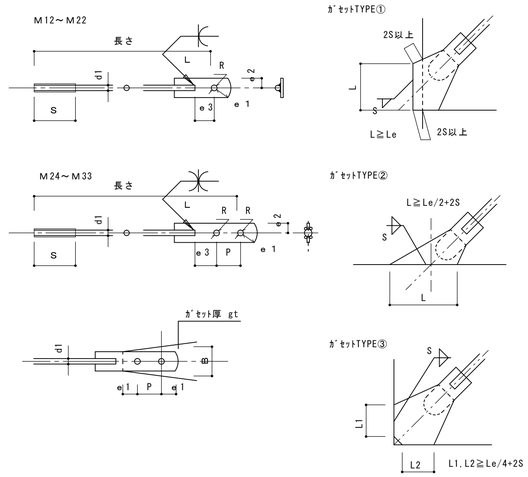


スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50，80，100，130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80，100，130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80，100，130，150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100，130，150

頭付スタッドのせん断耐力（t）

		普通		軽量	
コンクリート	Fc kg/cm2	180	210	180	210
	γ t/m3	2.3	2.3	1.85	1.9
	Ec*10^5 kg/cm2	1.99	2.15	1.44	1.62
スタッドせん断耐力(t)	13φ	3.98	4.46	3.38	3.87
	16φ	6.01	6.75	5.11	5.86
	19φ	8.49	9.54	7.22	8.28

（４） 鉄筋ブレース （JIS規格品）



羽子板ボルトの形状及びす法

ねじの呼び d		M12	M14	M16	M18	M20	M22
軸計 d1	最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33
	最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165
取付ﾎﾞﾙﾄ穴径 R		13	17	17	21.5	21.5	23.5
はしあき（最小）e1		35	40	45	50	50	55
切板製	（１） へりあき（最小）e2	22	28	28	34	34	38
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9
平鋼製	（１） へりあき（最小）e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9
ﾎﾞﾙﾄ端から取付ﾎﾞﾙﾄ穴芯（最小）e3		47	52	59	66	66	73
溶接長さ（最小）L		40	50	55	60	75	85
取付ボルト（２）	種類	JIS B 1186 F10T 又は JIS B 1180 中8g 10.9					
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22
	本数	1	1	1	1	1	1

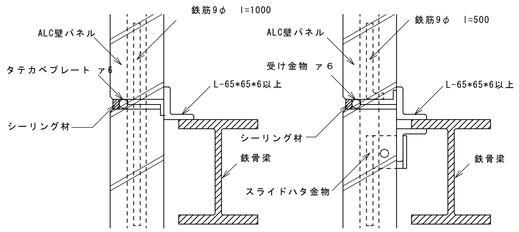
注） （１）ｅ1、ｅ2が確保されていれば形状は自由でよい
（２）羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し一面せん断（支圧）接合とする

ガセットプレート

ねじの呼び d		M12	M14	M16	M18	M20	M22
厚gt(mm)×幅B(mm)		6×60	6×60	9×70	9×70	9×80	12×80
必要溶接長L (mm)	サイズ S	6	6	8	8	8	10
	TYPE①	60	61	80	80	97	100
	TYPE②	42	43	56	56	65	70
	TYPE③	54	55	72	72	81	90

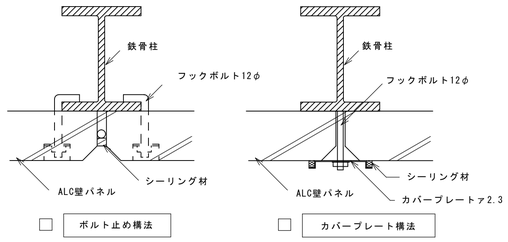
（５） ＡＬＣ板取付要領

縦壁構法



□ 挿入筋構法 □ スライド構法

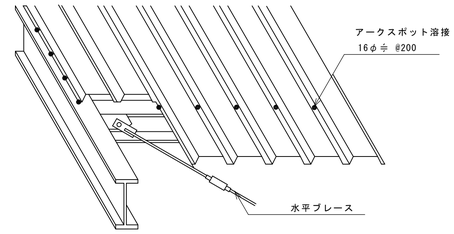
横壁構法



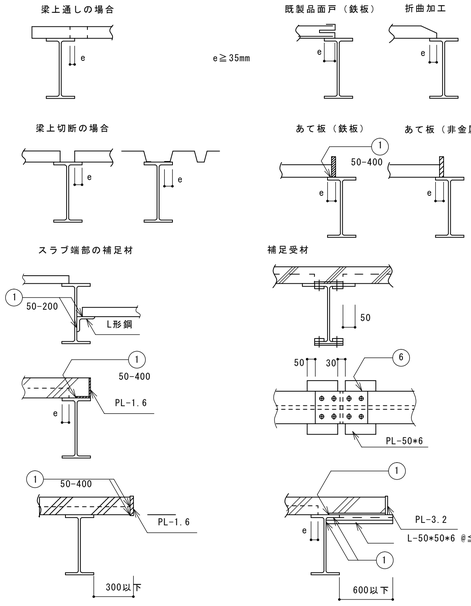
□ ボルト止め構法 □ カバープレート構法

（６） デッキプレート （床剛性を考慮する合成床，合成梁のときは構造図参照）

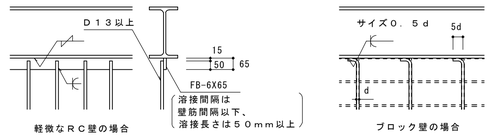
梁との溶接及びコネクター



受梁へのかかり寸法及び端部処理

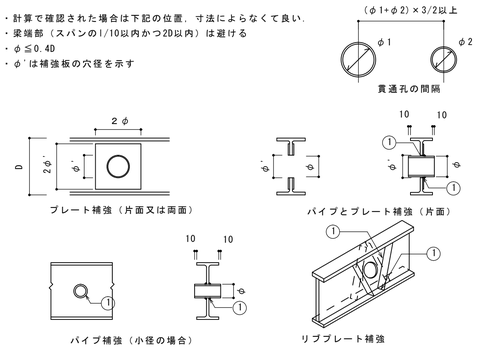


（７） 壁筋の溶接



（８） 梁貫通補強

・計算で確認された場合は下記の位置，寸法によらなくて良い．
・梁端部（スパンの1/10以内かつ2D以内）は避ける
・φ≦0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す

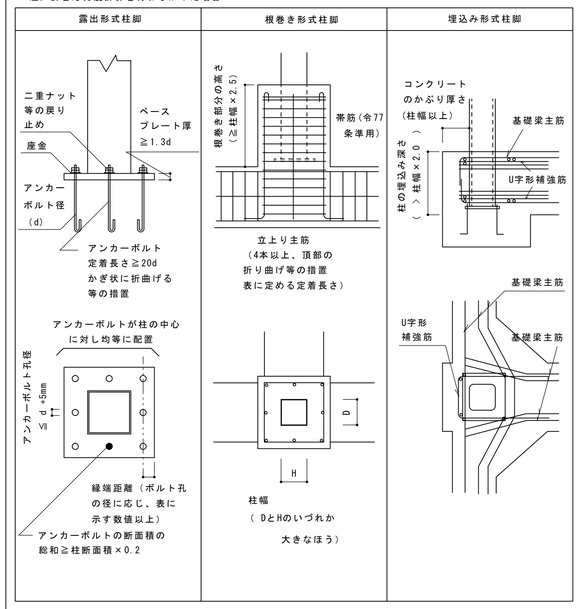


プレート補強の板厚

スリーブ径	補強板
φ≦0.15D	補強板不要
φ≦D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦D/3	Web板厚×1.2倍以上（片面）
φ≦0.4D	Web板厚以上（両面）

（９） 柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合



現場打ち一体式ＰＣ工事特記仕様書

１．総　　則

工事の準拠する図書，指針，基準等

本工事の準拠する図書，指針，基準等

・設計図書
・本特記仕様書
・日本建築学会プレストレストコンクリート（以下ＰＣという）設計施工規準
・日本建築学会プレストレスト鉄筋コンクリート（以下ＰＲＣという）構造設計・施工指針・同解説
・日本建築学会建築工事標準仕様書鉄筋コンクリート工事（ＪＡＳＳ５）

構造方式

本構造の方式は、鉄筋コンクリート（以下ＲＣという）造とＰＣ鋼材とを組み合せた現場打ち一体式プレストレストコンクリート造である。

プレストレス導入方式

プレストレス導入はポストテンション方式であり、その方式については“６．緊張”の項に示す。

ＰＣ工事施工業者

ＰＣ工事の施工については、（社）プレストレストコンクリート建設業協会に加盟したＰＣ専業者による一社の責任施工とする。

施工計画

施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画を監理者に提出して承認をうける。

２．材　　料

鉄筋

ＪＩＳ　Ｇ　３１１２ 熱間圧延異形棒鋼（ＳＤ２９５Ａ　及び　ＳＤ３４５）の規格に合格するもの。

ＰＣ鋼材

ＰＣ鋼材は ＪＩＳ　Ｇ　３５３６に適合し、有害なきずの無いものを使用しなければならない。

種　　類	ＰＣ鋼より線	
記　　号	ＳＷＰＲ７ＢＬ	
呼　び　名	９－φ１２．７	
引張強度	１，６４７　ｋＮ	
降伏荷重	１，４０４　ｋＮ	
伸　　び	３．５ %以上	

セメント

セメントはＪＩＳ　Ｒ　５２１０（ポルトランドセメント）に規定する普通セメントを原則とする。
他種のセメントを使用する場合は監理者の指示を受けること。

混和材料

コンクリート中に表面活性剤等の混和材料を用いる場合は、その品質、使用量について監理者の指示を受ける。

３．型　　枠

組立て・取外し

１）ＰＣ用コンクリートは硬練りコンクリートの振動打ちとなるので、打ち込みの際セメントペーストが漏れることのないように留意すること。
２）柱・梁等ＰＣ造部分の型枠については十分な耐力を持つように留意しなければならない。
３）ＰＣ造部分の型枠組み立て順序については、ＰＣ鋼材の配置に影響されて決定することが多いので注意しなければならない。
４）柱・梁型枠の締め付けは、フォームタイ及びボルト等により、十分強固にしなければならない。
５）ＰＣ造部分のサポートは、横つなぎ・筋違い等を十分に入れ、横力に対して安全な構造としなければならない。
６）ＰＣ造部分はプレストレスの導入が完了するまでは無筋コンクリートの状態であるため、絶対にサポートを外してはならない。
７）ＰＣ造部分は、原則としてＲＣ造の扱いであるため、型枠存置期間は、ＪＡＳＳ５によるものとする。
８）ＰＣ大梁の穿孔は、原則として行なってはならない。

４．配　　筋

鉄筋

鉄筋は正確に配置し、コンクリート打設の際にくずれぬよう、強固に組み立てなければならない。

ＰＣ鋼材

ＰＣ鋼材は次によって正確に配置し、堅固に取り付けなければならない。
１）梁端の定着具はコンクリート打ち込み前に型枠の内面に正確強固に取り付けること。
２）ＰＣ鋼材を露天に放置して、錆等で損傷させてはならない。
３）グラウト用孔、及び排気孔は十分に注意して取り扱い、コンクリート打設時に損傷することのないよう細心の注意をする。
４）ＰＣ鋼材の加工・組み立てを行なう場合、加熱または溶接を行なってはならない。
５）ＰＣ鋼材定着具の露出部はプレストレス導入後すみやかにモルタル等で完全に保護しなければならない。
６）ＰＣ鋼材の配置後、コンクリート打設に先立ち監理者の検査を受けなければならない。

５．コンクリート

品質

１）ＰＣ部分のコンクリートの調合は試験練りにより定めることを原則とするが、次を目安とする。

使用箇所	ＰＣ部	
設計基準強度	３０	Ｎ／ｍｍ２
プレ導入時強度	２７	Ｎ／ｍｍ２
骨材最大寸法	２０～２５	ｍｍ
スランプ	１８	ｃｍ以下

２）コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は次による。
（下記、供試体本数はプレストレス導入時強度確認用とし、構造躯体コンクリート強度確認用とは別に採取すること。）

	５日	７日	プレ導入前	２８日	合計
現場養生	３本	３本	３本	—	９本

・但し、試験練りなどによりプレストレス導入時強度の推定が出来る場合は、５日の圧縮強度試験を省略することができる。
・プレストレス導入時強度の確認は現場養生（現場水中養生、または、現場封かん養生）によること。
・プレ導入時圧縮強度試験は、一般構造図に記載された方法と同じとする。

打設

１）ＰＣ鋼材、鉄筋、型枠及び定着具が移動したり損傷したりしないよう注意する。
２）ＰＣ鋼材のケーブルシース内にはセメントペーストが入ってはならない。
３）ケーブルシースにはバイブレーターが直接触れないように細心の注意を払うこと。
４）ＰＣ鋼材定着部の割裂補強筋はコンクリート打設前に完全に行なわなければならない。
５）コンクリートの打ち込みは、打設場所にできる限り近づけて垂直に打ち込み、“片押し打ち”は避けなければならない。
６）原則として、ＰＣ部分におけるコンクリートの打継ぎは行なってはならない。

６．緊　　張

準備

緊張装置は予めキャリブレーションを行ない、常に正常な状態にあるよう管理し、コンクリートが所定の強度

２７　Ｎ／ｍｍ２　に達したことを確認のうえ、監理者の指示によりプレストレス導入作業を行なうこと。

順序

プレストレス導入順序は、ＰＣ大梁について局部的に完了せず、構造全体にわたって進めなければならない。

緊張力

現場におけるＰＣ鋼材の施工時緊張力は、それぞれ次のとおりとする。

呼び名	施工時緊張力
９－φ１２．７　ＳＷＰＲ７ＢＬ	１，１５２ ｋＮ

尚、緊張の管理は、緊張装置の圧力計（マノメーター）及び予め計算によって求めたＰＣ鋼材の伸び量とによって入念に行なうこと。

７．グラウチング

調合

グラウトの使用材料は、超低粘性プレミックスタイプ（ハイジェクター　同等品）を使用すること。
水粉体比はメーカー推奨範囲とし、メーカーの示す目標コンシステンシーを確保すること。
（調合例:温度２０℃の場合）
・水　　４５．０ｋｇ
・ハイジェクター　（プレミックスタイプ）　１２５．０ｋｇ

他の混和剤を使用する場合は、監理者と協議の上、決定すること。

作業

グラウチング作業は下記により行なうこと。
１）シース他端より流出するグラウトが、注入するグラウトと同じ程度になるまで注入を続ける。
２）排出口のグラウトが所定の濃度になったのを確認した後、排出口を閉じグラウトポンプの圧力をある程度上げて注入口を閉じる。
３）グラウトの注入は、原則としてグラウトが低い所から高い所に向かって侵入していくようにすること。
４）グラウト凍結の恐れのある時期は、原則として作業を行なわない。

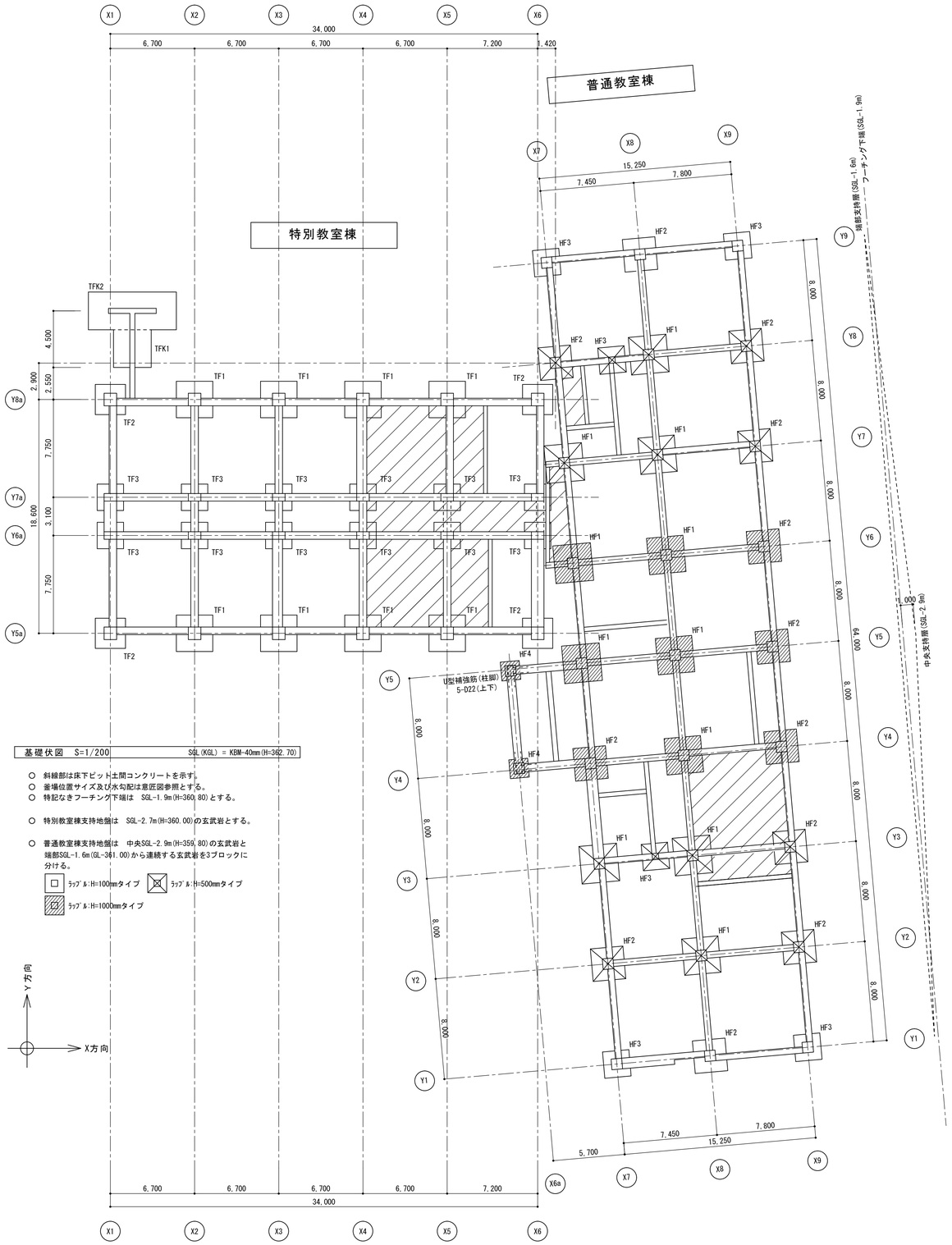
８．支　保　工

計画

ＰＣ大梁は通常の大梁に比べ、負担重量が大きいため、変形、耐力等を十分に検討し計画すること。

取り外し

ＰＣ大梁の支保工は、プレストレスの導入が完了するまでは絶対に取り外してはならない。

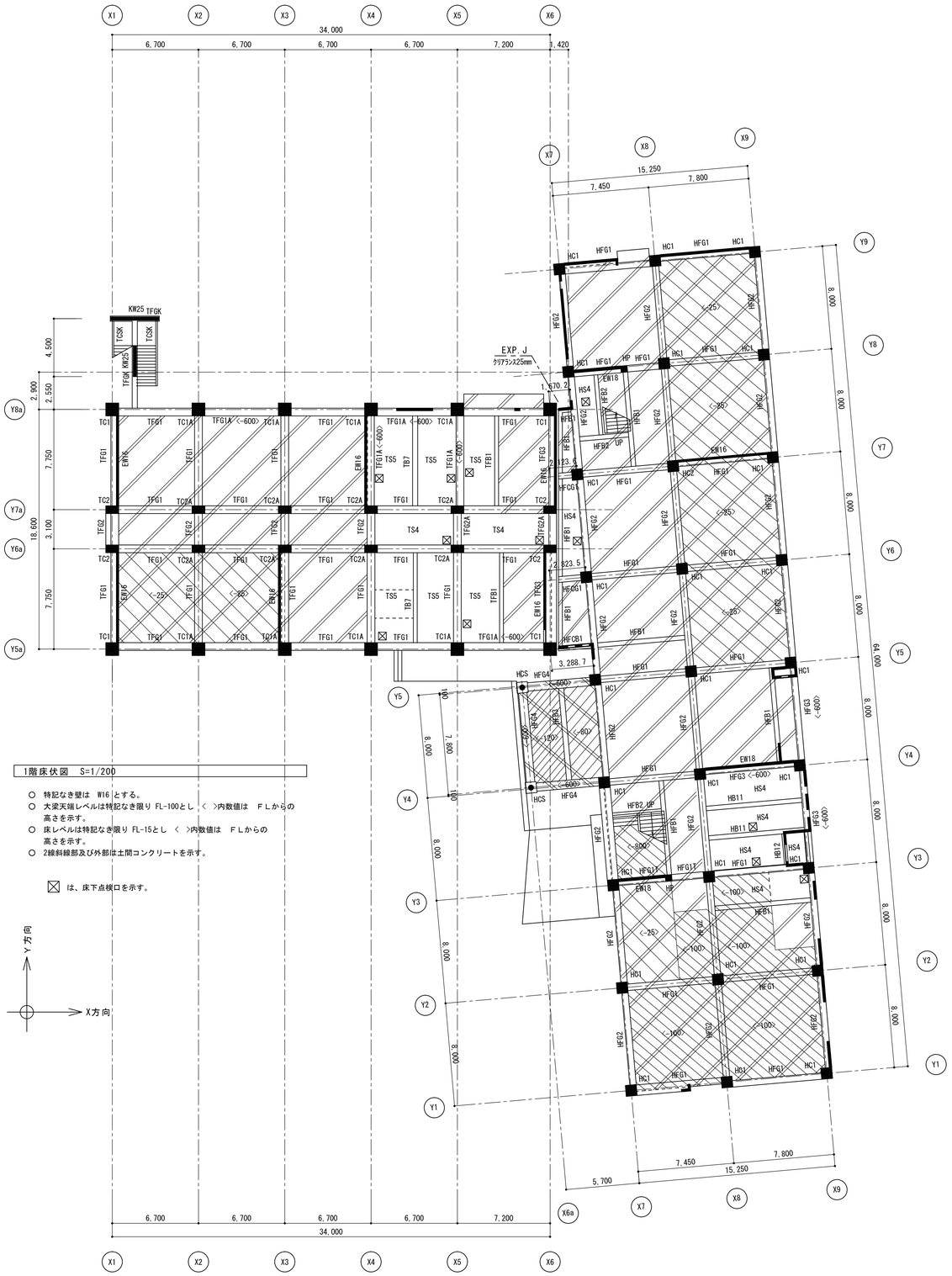


基礎伏図　S=1/200　　SGL(KGL) = KBM-40mm(H=362.70)

- ○ 斜線部は床下ピット土間コンクリートを示す。
- ○ 釜場位置サイズ及び水勾配は意匠図参照とする。
- ○ 特記なきフーチング下端は　SGL-1.9m(H=360.80)とする。
- ○ 特別教室棟支持地盤は　SGL-2.7m(H=360.00)の玄武岩とする。
- ○ 普通教室棟支持地盤は　中央SGL-2.9m(H=359.80)の玄武岩と端部SGL-1.6m(GL-361.00)から連続する玄武岩を3ブロックに分ける。

□ ﾗｯﾌﾟﾙ:H=100mmタイプ　⊠ ﾗｯﾌﾟﾙ:H=500mmタイプ

▨ ﾗｯﾌﾟﾙ:H=1000mmタイプ

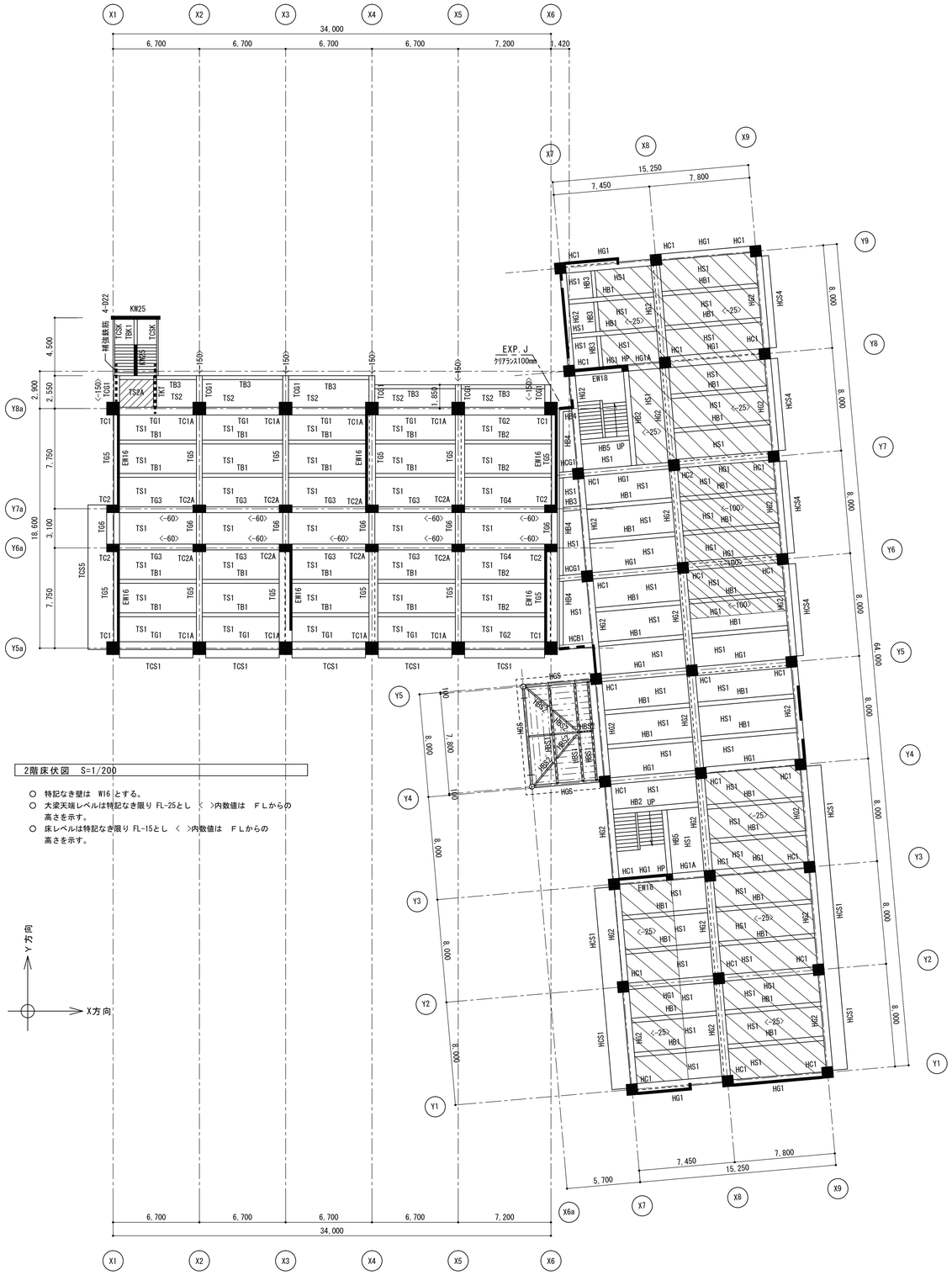


1階床伏図　S=1/200

- ○ 特記なき壁は　W16 とする。
- ○ 大梁天端レベルは特記なき限り FL-100とし　＜　＞内数値は　ＦＬからの高さを示す。
- ○ 床レベルは特記なき限り FL-15とし　＜　＞内数値は　ＦＬからの高さを示す。
- ○ 2線斜線部及び外部は土間コンクリートを示す。

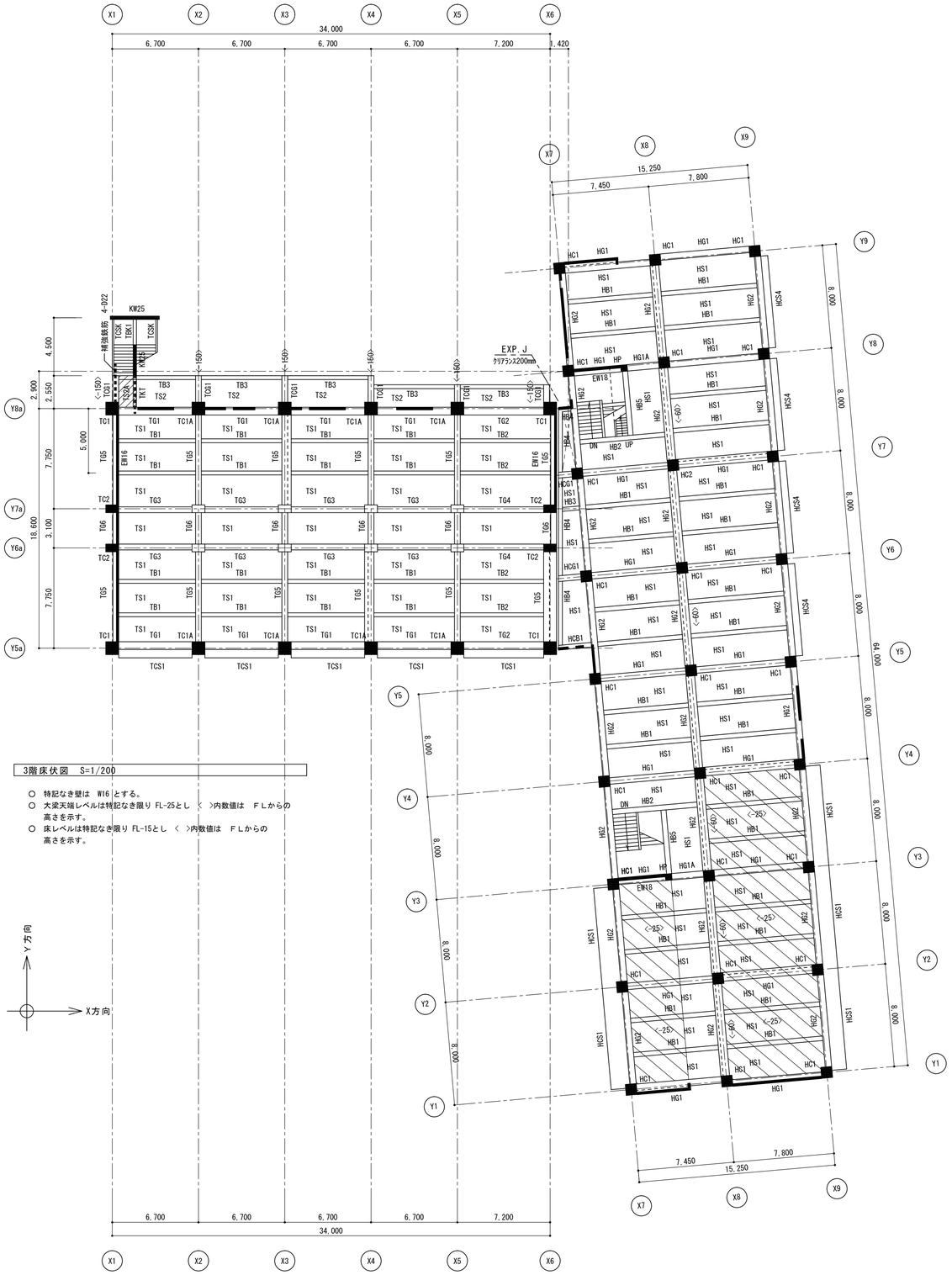
⊠ は、床下点検口を示す。

特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 (一級建築士　第219268号)	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/200 A3:1/400 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 基礎伏図　1階床伏図	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-07



2階床伏図　S=1/200

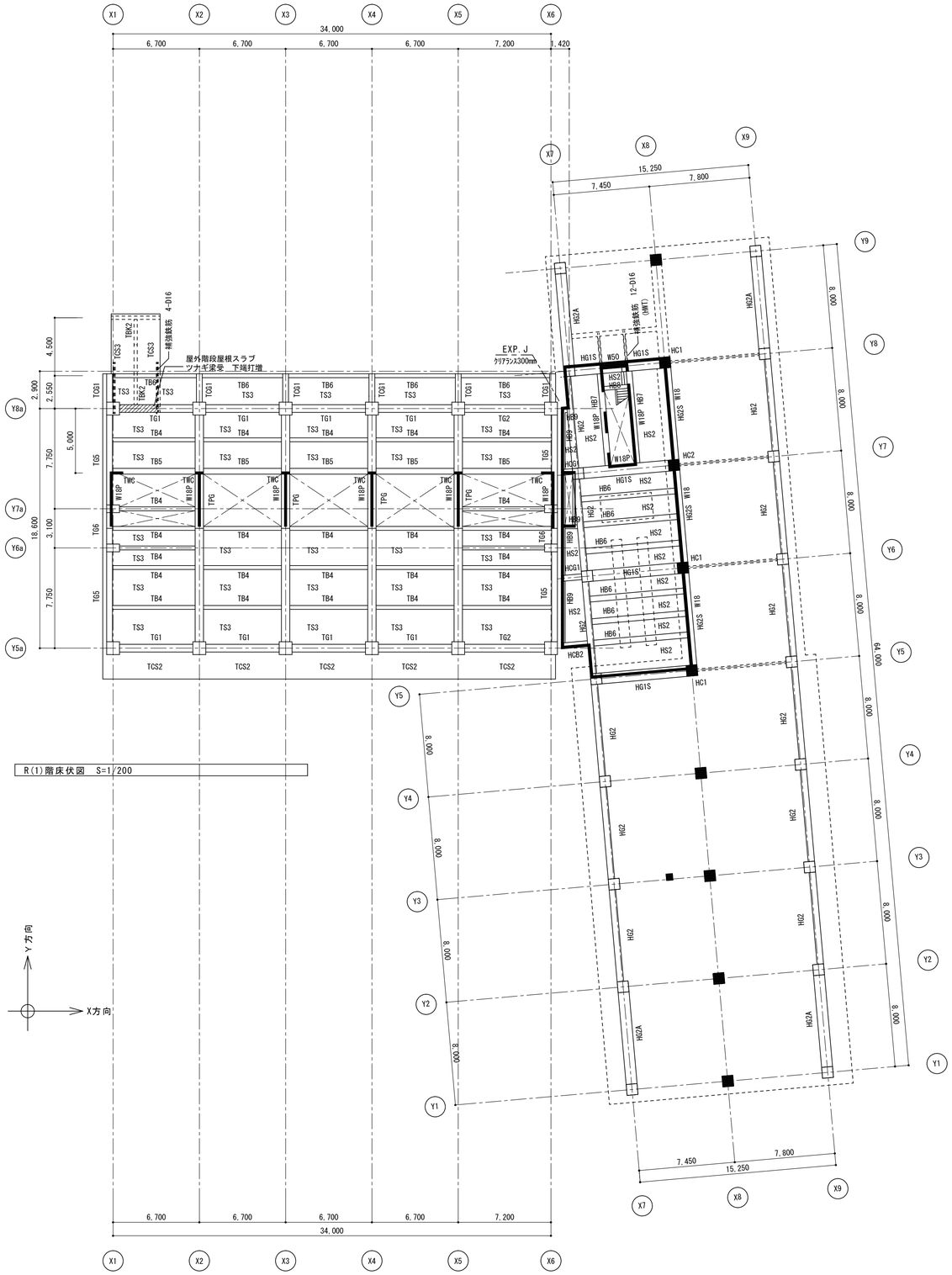
○　特記なき壁は　W16とする。
○　大梁天端レベルは特記なき限り FL-25とし　〈　〉内数値は　ＦＬからの高さを示す。
○　床レベルは特記なき限り FL-15とし　〈　〉内数値は　ＦＬからの高さを示す。



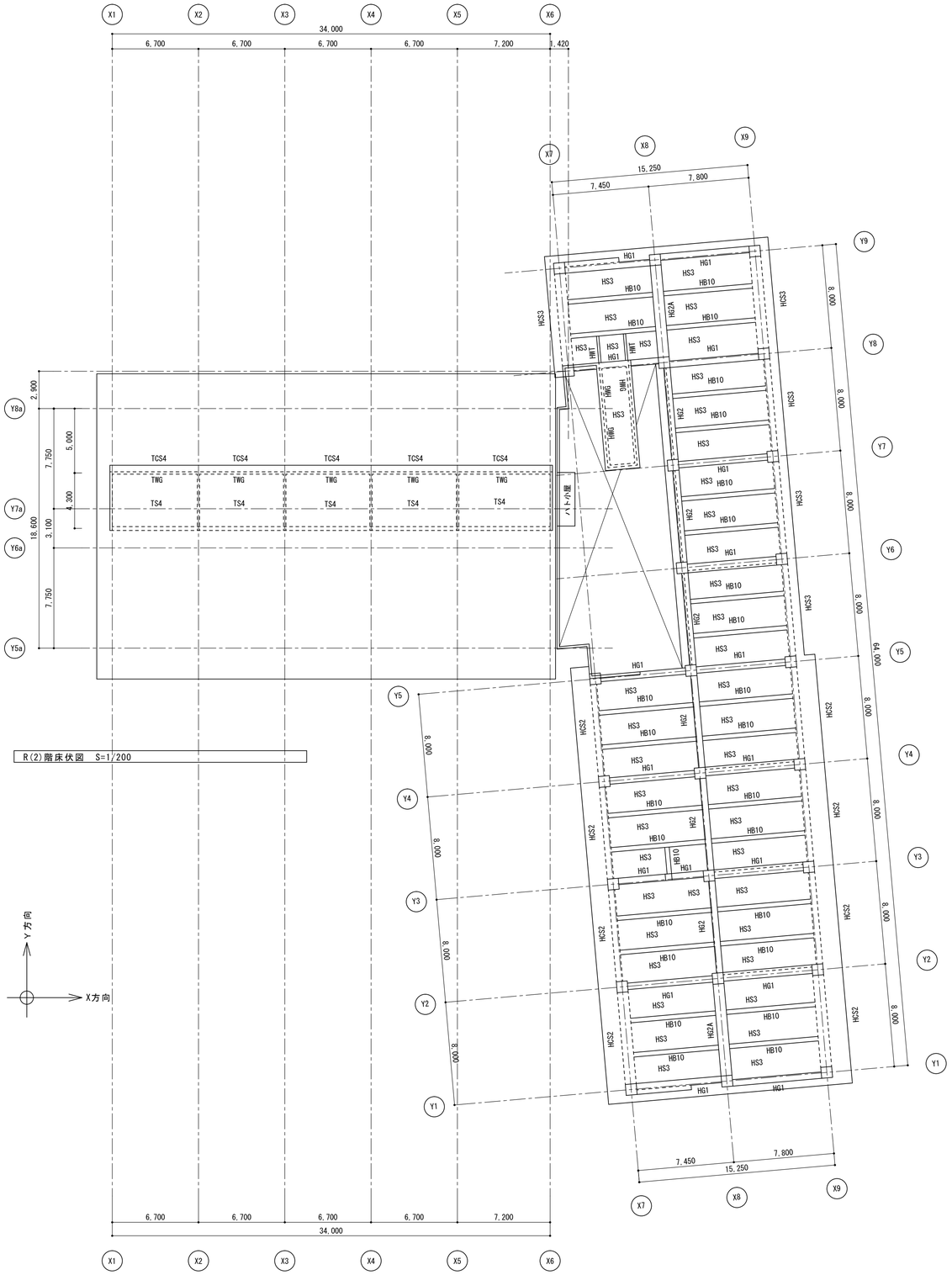
3階床伏図　S=1/200

○　特記なき壁は　W16とする。
○　大梁天端レベルは特記なき限り FL-25とし　〈　〉内数値は　ＦＬからの高さを示す。
○　床レベルは特記なき限り FL-15とし　〈　〉内数値は　ＦＬからの高さを示す。

特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）		一級建築士 登録番号 第 １４８７１４ 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/200 A3:1/400 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 2階床伏図　3階床伏図	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-08

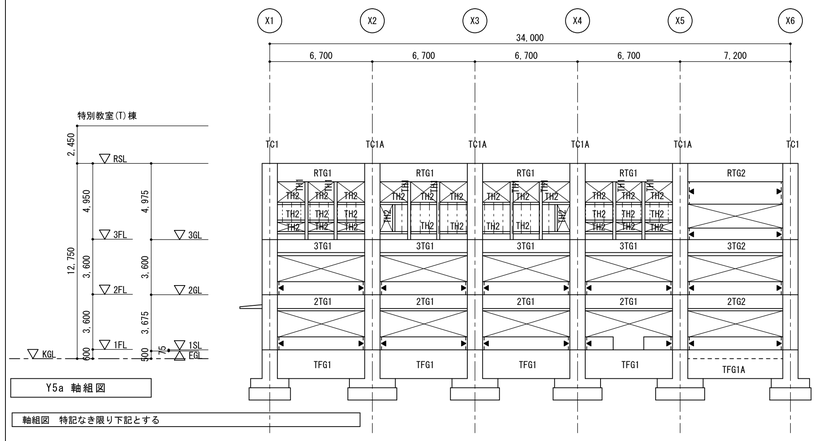


R(1)階床伏図　S=1/200

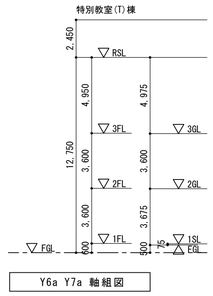


R(2)階床伏図　S=1/200

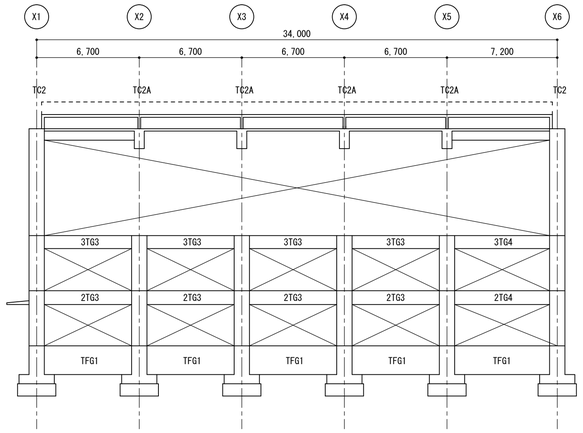
特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/200 A3:1/400 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 R階床伏図	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-09

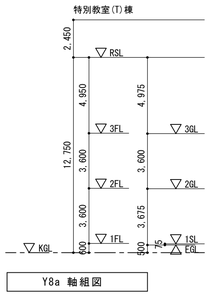


Y5a 軸組図

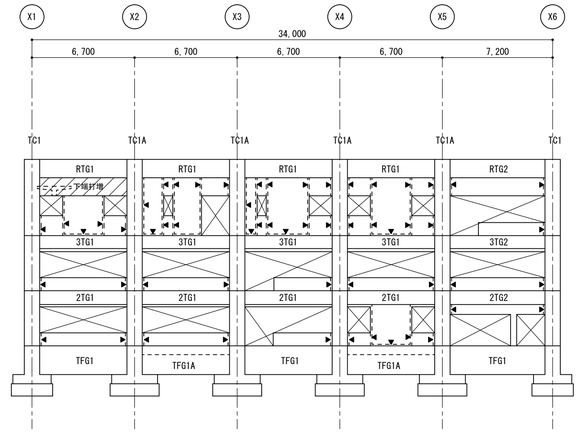


Y6a Y7a 軸組図





Y8a 軸組図



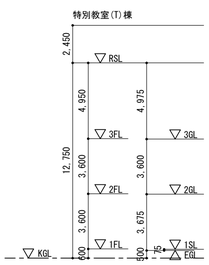
軸組図　特記なき限り下記とする

○ 壁は W16 とする。

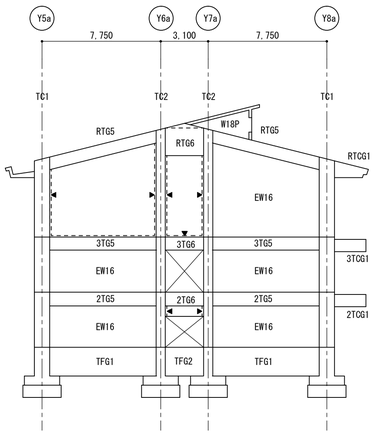
壁開口を示す。

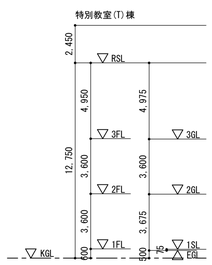
表示は構造スリットを示す

鉄骨胴縁下地　特記なき限り　C-100×50×20×2.3　@600

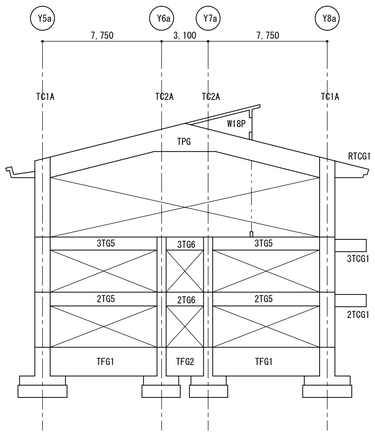


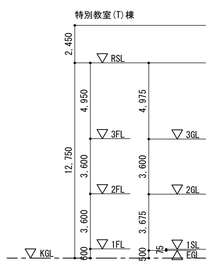
X1 軸組図



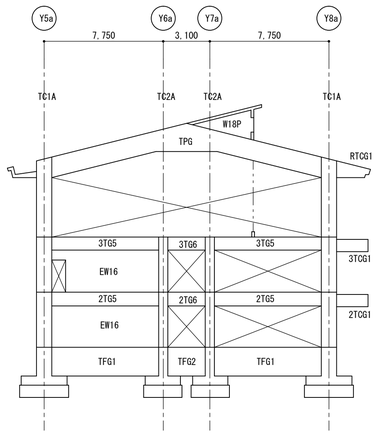


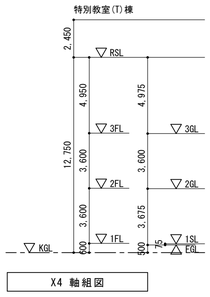
X2 軸組図



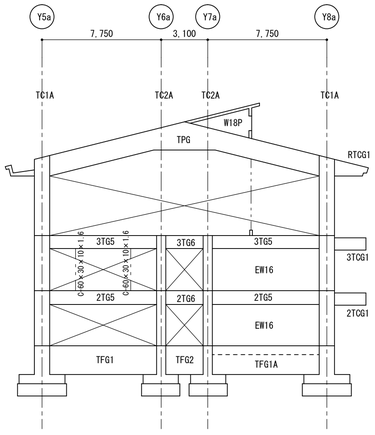


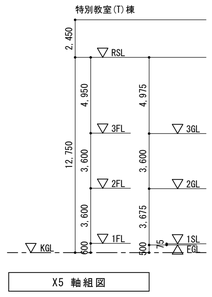
X3 軸組図



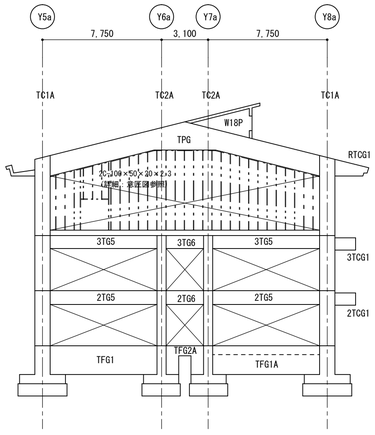


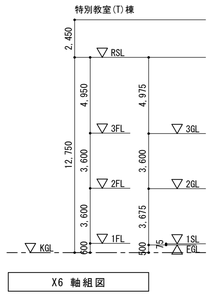
X4 軸組図



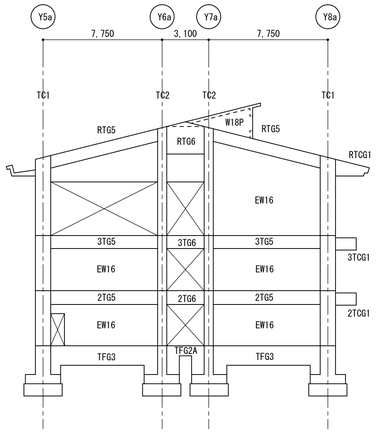


X5 軸組図

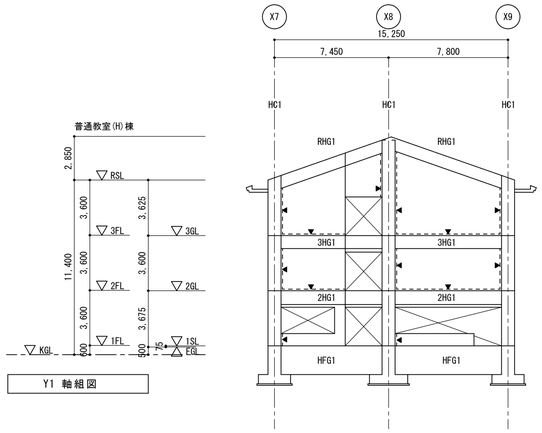




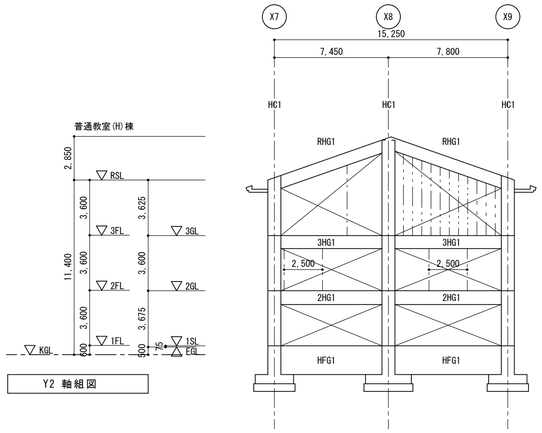
X6 軸組図



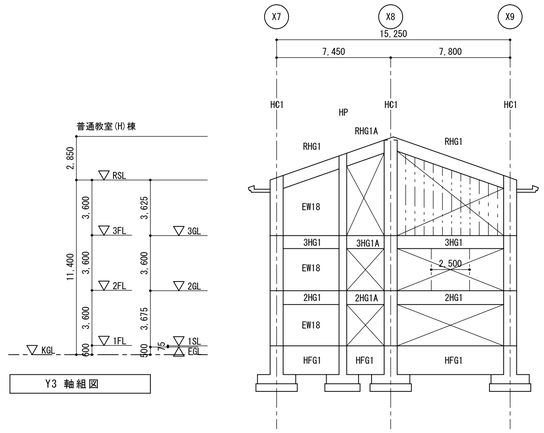
特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/200 A3:1/400 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 軸組図(1)	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-10



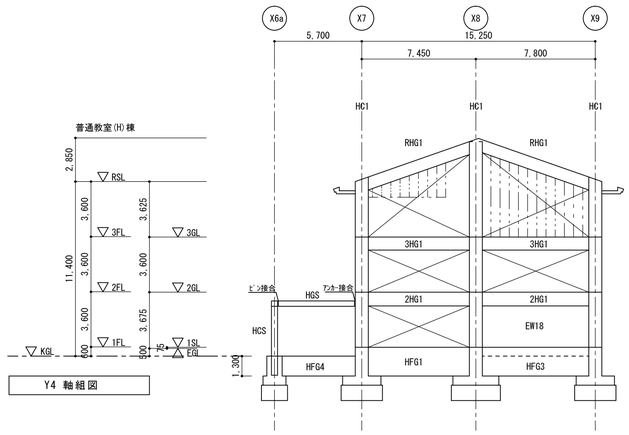
Y1 軸組図



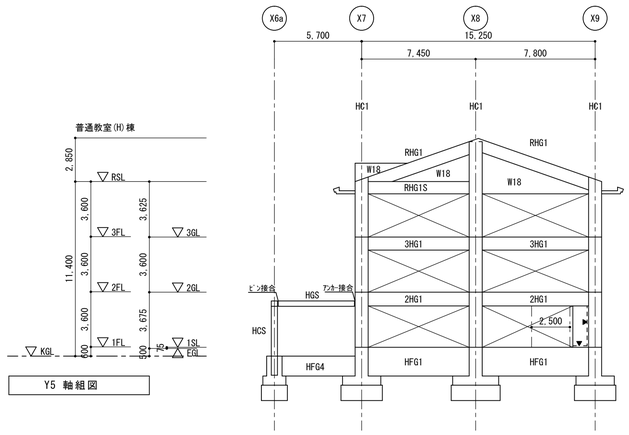
Y2 軸組図



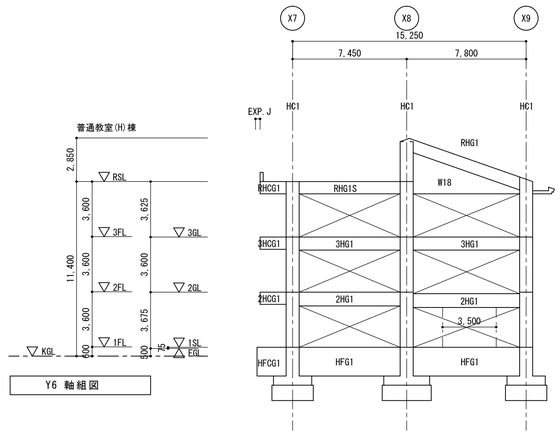
Y3 軸組図



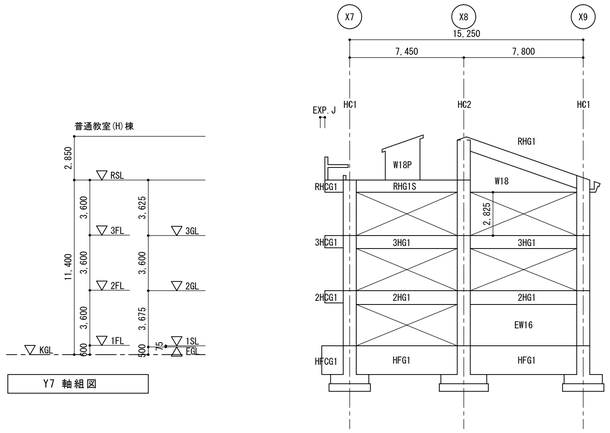
Y4 軸組図



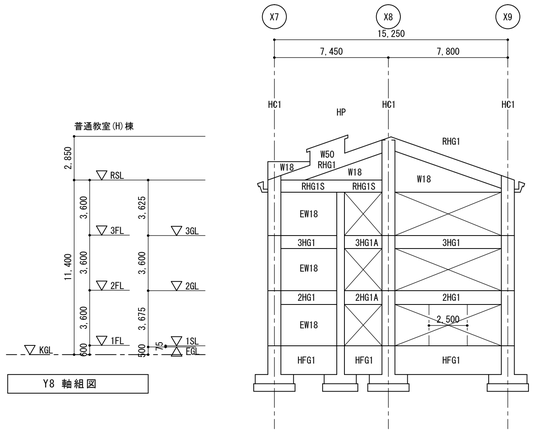
Y5 軸組図



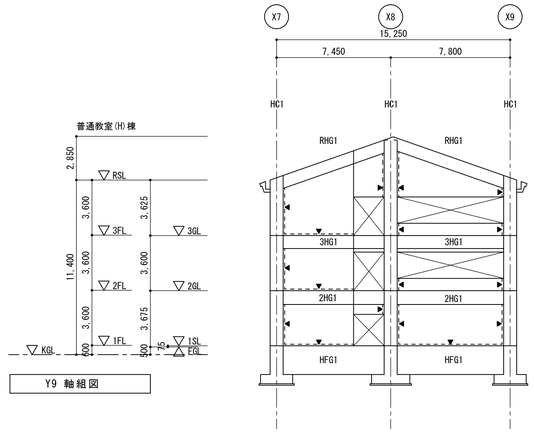
Y6 軸組図



Y7 軸組図

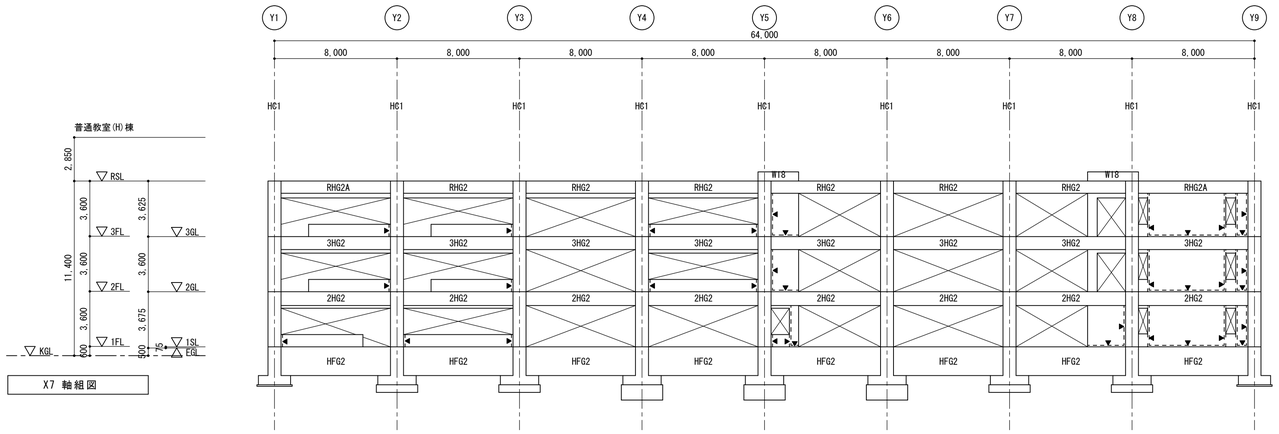


Y8 軸組図

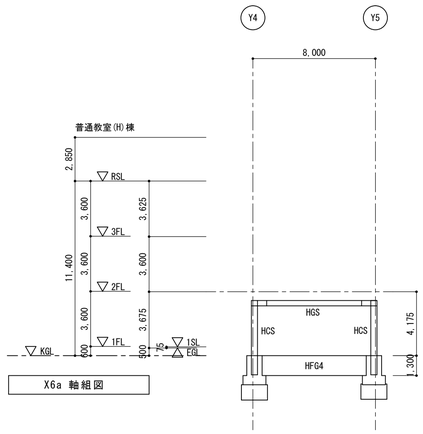


Y9 軸組図

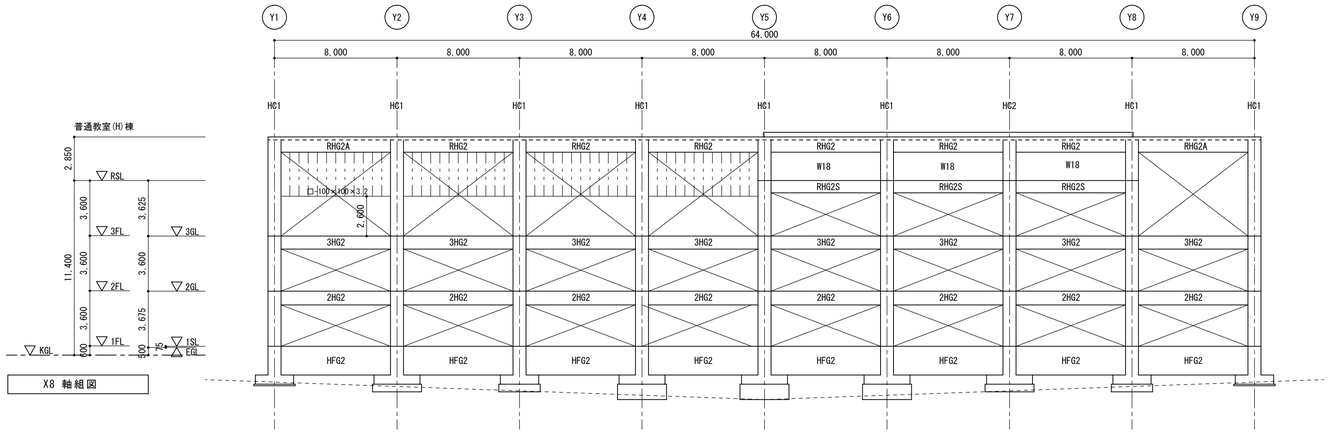
特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/200 A3:1/400 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 軸組図(2)	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-11



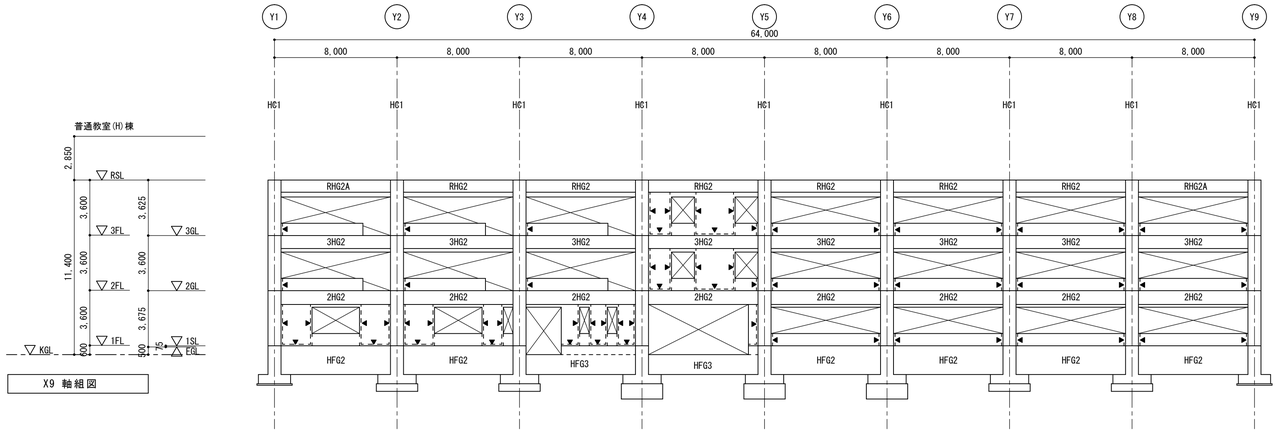
X7 軸組図



X6a 軸組図



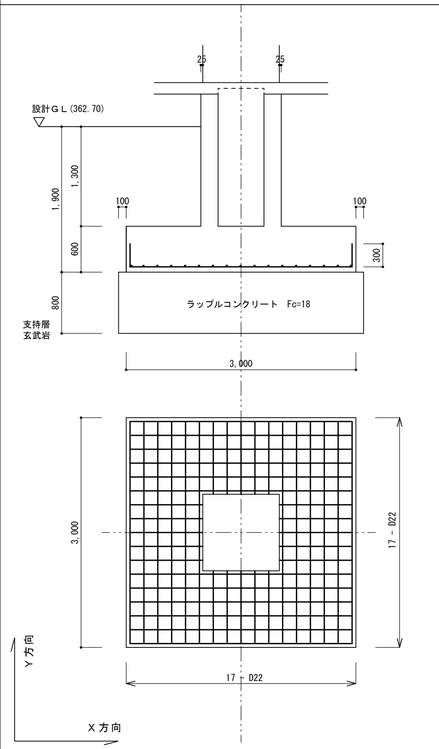
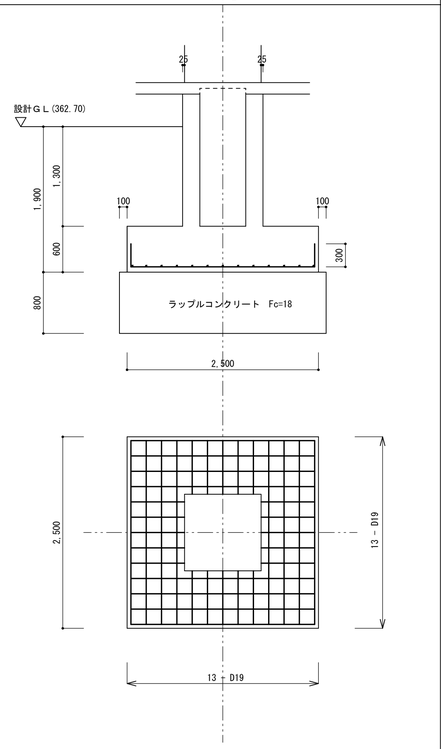
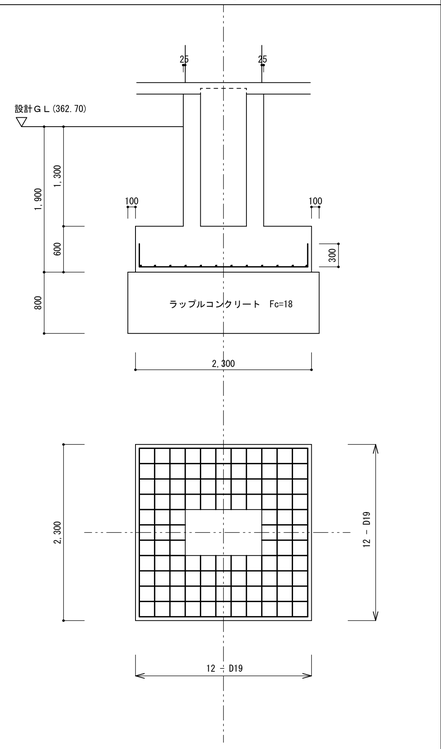
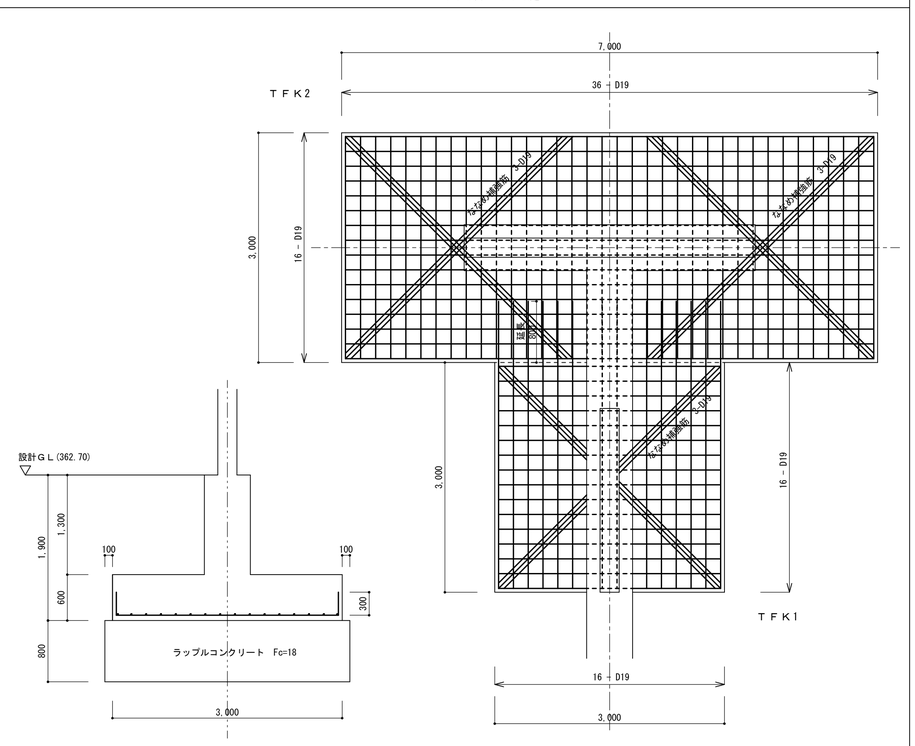
X8 軸組図

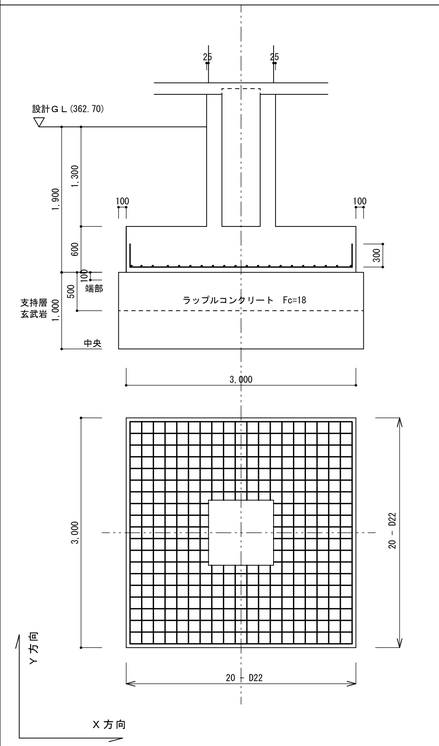
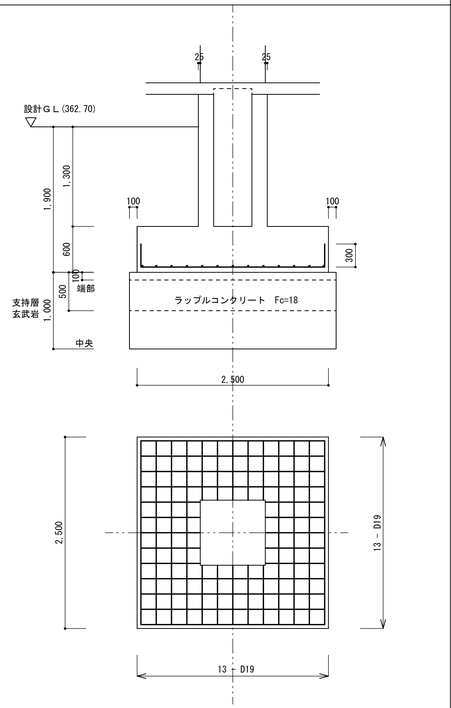
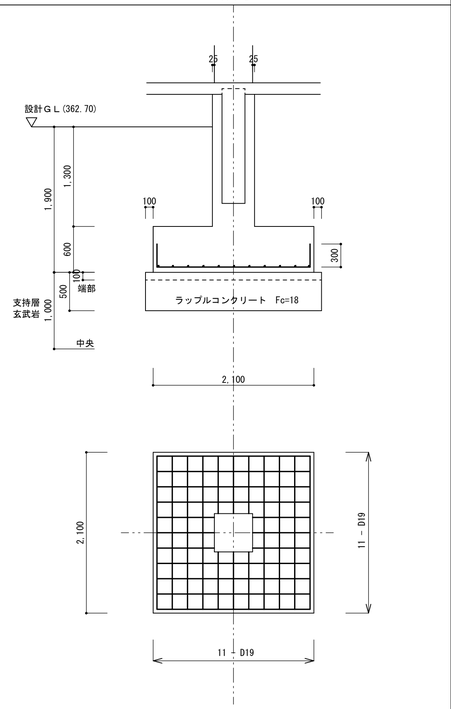
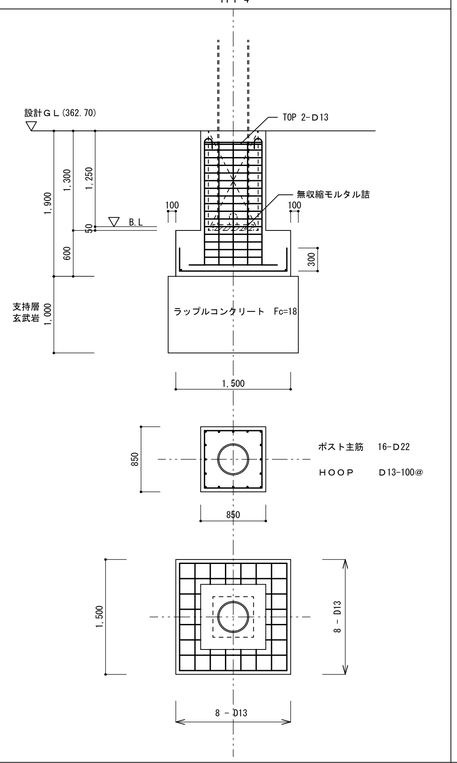


X9 軸組図

特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/200 A3:1/400 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 軸組図(3)	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-12

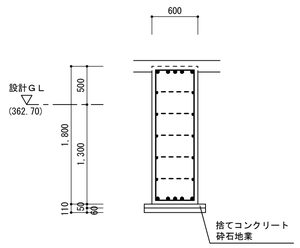
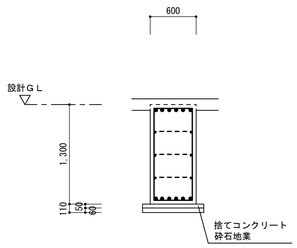
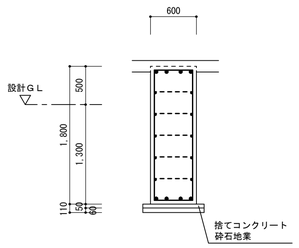
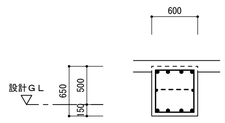
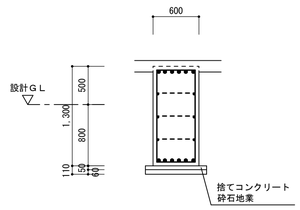
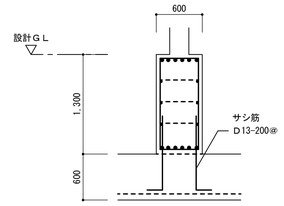
基礎リスト　S=1/40

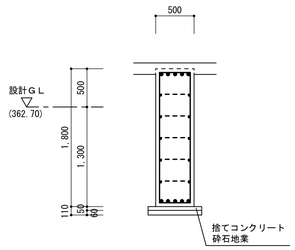
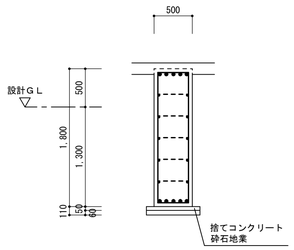
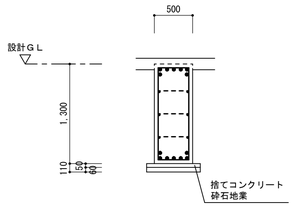
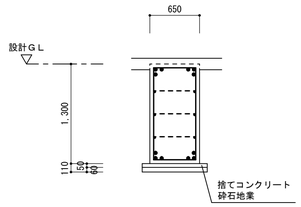
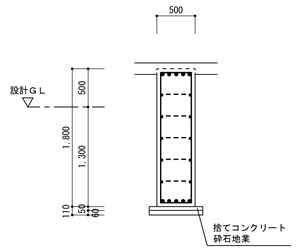
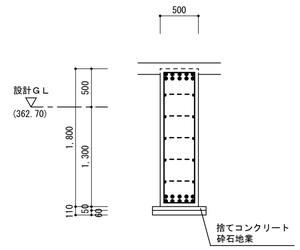
記号	ＴＦ１	ＴＦ２	ＴＦ３	ＴＦＫ１　ＴＦＫ２
断面				

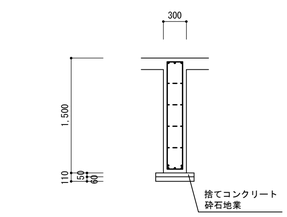
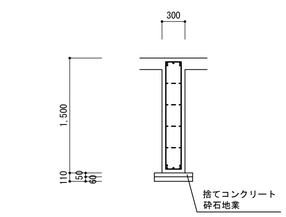
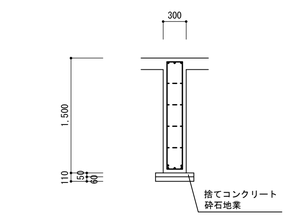
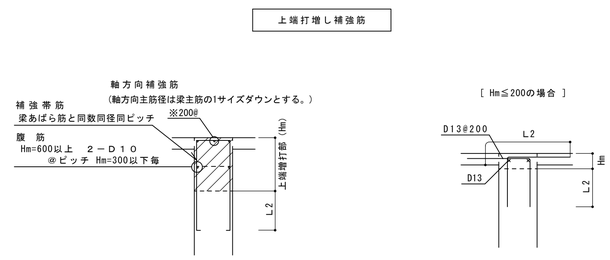
記号	ＨＦ１	ＨＦ２	ＨＦ３	ＨＦ４
断面				

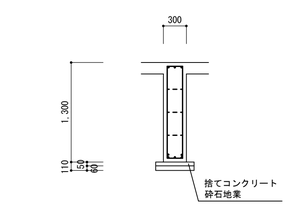
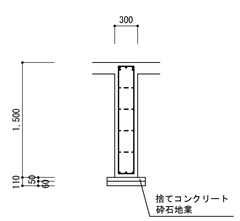
特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/40 A3:1/80 設計年月日 2012.3	工事名　大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名　基礎リスト	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-13

地中梁断面リスト　S=1/40

記号	ＴＦＧ １	ＴＦＧ １Ａ	ＴＦＧ ２	ＴＦＧ ２Ａ	ＴＦＧ ３	ＴＦＧ Ｋ
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面						
上筋	５－Ｄ２５	６－Ｄ２５	４－Ｄ２５	４－Ｄ２５	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５
下筋	５－Ｄ２５	６－Ｄ２５	４－Ｄ２５	４－Ｄ２５	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５
ＳＴＰ	Ｄ１３－２００@	Ｄ１３－２００@	Ｄ１３－２００@	Ｄ１３－２００@	Ｄ１３－２００@	Ｄ１３－２００@
腹筋	１０－Ｄ１０	６－Ｄ１０	１０－Ｄ１０	２－Ｄ１０	６－Ｄ１０	６－Ｄ１０
巾止筋	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@

記号	ＨＦＧ １	ＨＦＧ ２	ＨＦＧ ３	ＨＦＧ ４	ＨＦＣＧ １	ＨＦＧ １Ｔ
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面						
上筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	７－Ｄ２５	６－Ｄ２２	５－Ｄ２５	１０－Ｄ２５
下筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	７－Ｄ２５	６－Ｄ２２	５－Ｄ２５	１０－Ｄ２５
ＳＴＰ	Ｄ１３－２００@	Ｄ１３－１５０@	Ｄ１３－１５０@	Ｄ１３－１５０@	Ｄ１３－２００@	Ｄ１３－２００@
腹筋	１０－Ｄ１０	１０－Ｄ１０	６－Ｄ１０	６－Ｄ１０	１０－Ｄ１０	１０－Ｄ１０
巾止筋	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@

記号	ＴＦＢ １		ＨＦＢ １	ＨＦＢ ２	地中梁上端・下端フカシ補強要領
位置	全断面		全断面	全断面	
断面					
上筋	３－Ｄ１９		５－Ｄ１９	３－Ｄ１９	
下筋	５－Ｄ１９		５－Ｄ１９	５－Ｄ１９	
ＳＴＰ	Ｄ１０－１５０@		Ｄ１０－１５０@	Ｄ１０－１５０@	
腹筋	８－Ｄ１０		８－Ｄ１０	８－Ｄ１０	
巾止筋	Ｄ１０－８００@		Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@	

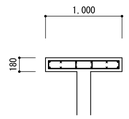
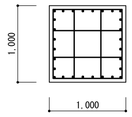
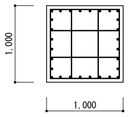
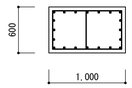
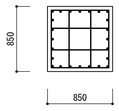
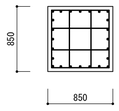
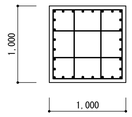
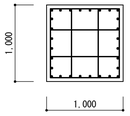
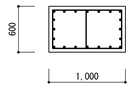
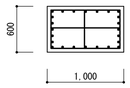
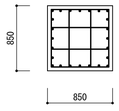
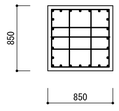
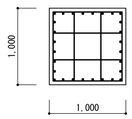
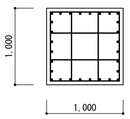
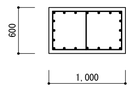
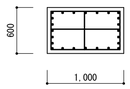
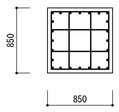
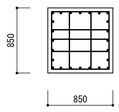
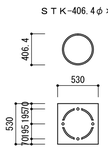
記号	ＨＦＢ ３	ＨＦＣＢ １		
位置	全断面	全断面		
断面				
上筋	３－Ｄ１９	５－Ｄ１９		
下筋	５－Ｄ１９	３－Ｄ１９		
ＳＴＰ	Ｄ１０－１５０@	Ｄ１０－１５０@		
腹筋	６－Ｄ１０	８－Ｄ１０		
巾止筋	Ｄ１０－８００@	Ｄ１０－８００@		

特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 (一級建築士　第219268号)		一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300 (代)	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/40 A3:1/80 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 地中梁リスト

意匠 / 構造 / 電気 / 衛生 / 空調

No. S-14

柱断面リスト　S=1/40

符号		ＴＣ１		ＴＣ１Ａ		ＴＣ２		ＴＣ２Ａ		ＴＷＣ		ＨＣ１		ＨＣ２		ＨＰ		ＨＣＳ	
断面	方向	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y
	Ｒ　階 柱頭・柱脚共通																		
	主　筋									2-D19	2-D19 + 8-D13								
	ＨＯＯＰ									2-D10@100	4-D10@100								
	３　階 柱頭・柱脚共通																		
	主　筋	8-D25	8-D25	8-D29	8-D29	5-D25	7-D25					7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	3-D22	3-D22		
	ＨＯＯＰ	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	2-D13@100	3-D13@100					4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	4-D13@100	2-D10@100	2-D10@100		
	２　階 柱頭・柱脚共通																		
	主　筋	8-D25	8-D25	8-D29	8-D29	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25			7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	3-D22	3-D22		
	ＨＯＯＰ	4-D13@100	4-D13@100	4-S13@100	4-S13@100	2-D13@100	3-D13@100	3-D13@100	3-D13@100			4-S13@100	4-S13@100	5-S13@100	4-S13@100	2-D10@100	2-D10@100		
	１　階 柱頭・柱脚共通																		
	主　筋	8-D25	8-D25	8-D29	8-D29	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25			7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	3-D22	3-D22		
	ＨＯＯＰ	4-D13@100	4-D13@100	4-S13@100	4-S13@100	2-D13@100	3-D13@100	3-D13@100	3-D13@100			4-S13@100	4-S13@100	5-S13@100	4-S13@100	2-D10@100	2-D10@100		

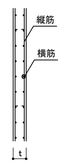
HOOP記号

S13　高強度せん断補強筋

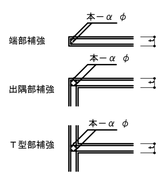
σy=785(N/mm2)　大臣認定品

壁断面リスト

注記　ダブル配筋の場合タテ横共Ｄ１０@１０００以下にて内外筋を連結する

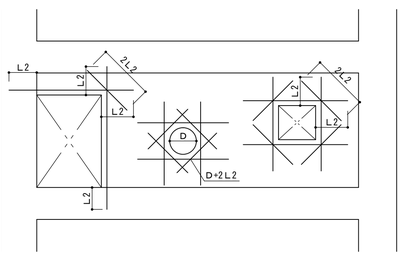
形状	種別	壁厚	壁の配筋		開口等補強筋 縦筋	横筋	斜筋
	Ｗ１２ (手摺他雑壁)	１２０	縦筋	Ｄ１０@２００　ｼﾝｸﾞﾙ	１－Ｄ１３	１－Ｄ１３	１－Ｄ１３
			横筋	Ｄ１０@２００　ｼﾝｸﾞﾙ			
	Ｗ１６・ＥＷ１６	１６０	縦筋	Ｄ１０@１５０　ﾀﾞﾌﾞﾙ	２－Ｄ１６	２－Ｄ１６	２－Ｄ１３
			横筋	Ｄ１０@１５０　ﾀﾞﾌﾞﾙ			
	Ｗ１８・ＥＷ１８	１８０	縦筋	Ｄ１３@２００　ﾀﾞﾌﾞﾙ	２－Ｄ１９	２－Ｄ１９	２－Ｄ１３
			横筋	Ｄ１３@２００　ﾀﾞﾌﾞﾙ			
	Ｗ１８Ｐ (塔屋壁構造)	１８０	縦筋	Ｄ１０@１５０　ﾀﾞﾌﾞﾙ	２－Ｄ１９	２－Ｄ１９	２－Ｄ１３
			横筋	Ｄ１０@１５０　ﾀﾞﾌﾞﾙ			
	ＫＷ２５ (階段壁)	２５０	縦筋	Ｄ１３@１５０　ﾀﾞﾌﾞﾙ			
			横筋	Ｄ１３@２００　ﾀﾞﾌﾞﾙ			
	Ｗ５０	５００	縦筋	Ｄ１６@１００　ﾀﾞﾌﾞﾙ			
			横筋	Ｄ１３@２００　ﾀﾞﾌﾞﾙ			

壁端部出隅補強要領

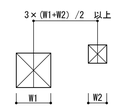


壁厚	端部 本－α φ	出隅部 本－α φ	Ｔ型部 本－α φ
１６０	２－Ｄ１３	４－Ｄ１３	４－Ｄ１３
１８０	２－Ｄ１６	４－Ｄ１６	４－Ｄ１６
２５０	４－Ｄ１９		
５００			６－Ｄ１９

開口部補強筋

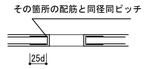


開口ピッチは原則として　3×（隣接する開口寸法の平均）以上とする。

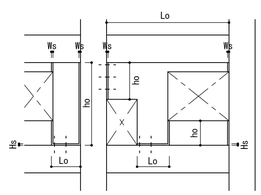


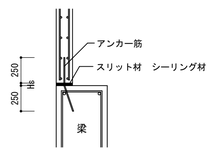
ダブル配筋　開口部小口補強

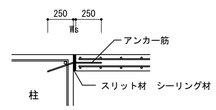
その箇所の配筋と同径同ピッチ



壁スリット（完全スリット）





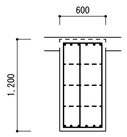
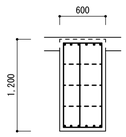
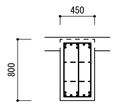
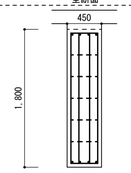
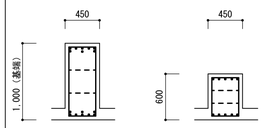
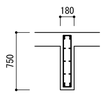


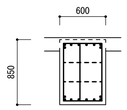
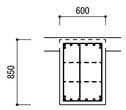
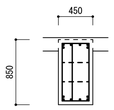
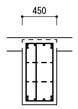
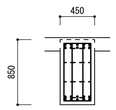
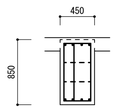
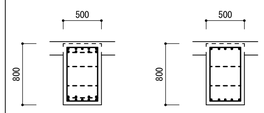
1. スリット位置は軸組図参照。
2. スリットアンカー筋はD10~400@とする。
3. スリット部分の鉄筋等のかぶり厚さは30mm以上とする。
4. スリット幅は下記とする。
   鉛直スリット幅Wsは、15mm以上かつho/100以上。
   水平スリット幅Hsは、15mm以上かつLo/100以上。
   ただし40mmを超える場合は、40mmとする。
5. 既製品を使用する場合は、耐火性及び止水性のある製品を選定し、監督員の承認を受けて使用すること。

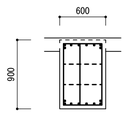
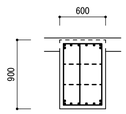
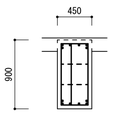
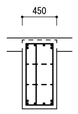
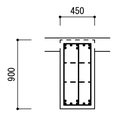
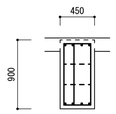
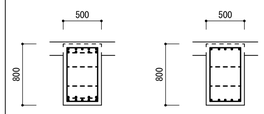
※ アンカー筋が主筋に当たる場合は90度まで折り曲げてよい。

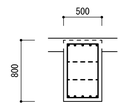
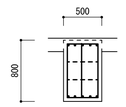
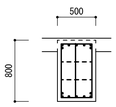
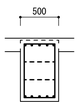
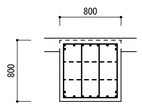
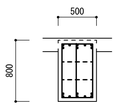
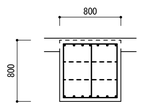
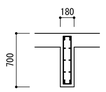
特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村 一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第I-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/40 A3:1/80 設計年月日 2012.3	工事名　大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名　柱リスト　壁リスト	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-15

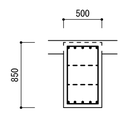
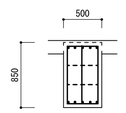
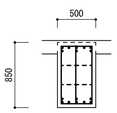
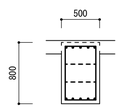
大梁断面リスト　S=1/40　　巾止め筋は　D10 @800以下とする

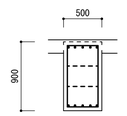
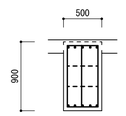
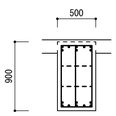
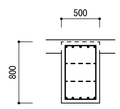
記号	ＴＧ１	ＴＧ２			ＴＧ５	ＴＧ６	ＴＣＧ１		ＴＷＧ
位置	全断面	全断面			全断面	全断面	基端・中央	先端	
Ｒ　階									
上端筋	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５			８－Ｄ２５	４－Ｄ２５	８－Ｄ２５	５－Ｄ２５	４－Ｄ１９
下端筋	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５			８－Ｄ２５	４－Ｄ２５	８－Ｄ２５	５－Ｄ２５	４－Ｄ１９
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１５０			□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１００	□-Ｄ１３@２００	□-Ｄ１３@２００	□-Ｄ１０@２００
腹筋	６－Ｄ１０	６－Ｄ１０			４－Ｄ１０	１０－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	６－Ｄ１０

記号	ＴＧ１	ＴＧ２	ＴＧ３	ＴＧ４	ＴＧ５	ＴＧ６	ＴＣＧ１		
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	基端・中央	先端	
３　階									
上端筋	８－Ｄ２５	８－Ｄ２５	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５	１０－Ｄ２５	４－Ｄ２５	９－Ｄ２５	５－Ｄ２５	
下端筋	８－Ｄ２５	８－Ｄ２５	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５	１０－Ｄ２５	４－Ｄ２５	９－Ｄ２５	５－Ｄ２５	
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@２００	□□-Ｄ１３@２００	□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@２００	□-Ｄ１３@２００	□-Ｄ１３@２００	
腹筋	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	

記号	ＴＧ１	ＴＧ２	ＴＧ３	ＴＧ４	ＴＧ５	ＴＧ６	ＴＣＧ１		
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	基端・中央	先端	
２　階									
上端筋	８－Ｄ２５	８－Ｄ２５	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５	８－Ｄ２５	４－Ｄ２５	９－Ｄ２５	５－Ｄ２５	
下端筋	８－Ｄ２５	８－Ｄ２５	６－Ｄ２５	６－Ｄ２５	８－Ｄ２５	４－Ｄ２５	９－Ｄ２５	５－Ｄ２５	
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@２００	□□-Ｄ１３@２００	□□-Ｄ１３@２００	□□-Ｄ１３@２００	□-Ｄ１３@２００	□-Ｄ１３@２００	
腹筋	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	

記号	ＨＧ１	ＨＧ１Ａ	ＨＧ２	ＨＣＧ１	ＨＧ１Ｓ	ＨＧ２Ｓ	ＨＧ２Ａ	ＨＷＧ
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
Ｒ　階								
上端筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	７－Ｄ２５	５－Ｄ２５	９－Ｄ２５	８－Ｄ２５	７－Ｄ２５	４－Ｄ１６
下端筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	７－Ｄ２５	５－Ｄ２５	９－Ｄ２５	８－Ｄ２５	７－Ｄ２５	４－Ｄ１６
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１００	□□-Ｄ１３@１５０	□-Ｄ１３@２００	□□□-Ｄ１３@１００	□□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１５０	□-Ｄ１０@１００
腹筋	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	６－Ｄ１０

記号	ＨＧ１	ＨＧ１Ａ	ＨＧ２	ＨＣＧ１
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
３　階				
上端筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	８－Ｄ２５	５－Ｄ２５
下端筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	８－Ｄ２５	５－Ｄ２５
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１００	□□-Ｄ１３@１５０	□-Ｄ１３@２００
腹筋	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０

記号	ＨＧ１	ＨＧ１Ａ	ＨＧ２	ＨＣＧ１
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
２　階				
上端筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	８－Ｄ２５	５－Ｄ２５
下端筋	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	８－Ｄ２５	５－Ｄ２５
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-Ｄ１３@１５０	□□-Ｄ１３@１００	□□-Ｄ１３@１５０	□-Ｄ１３@２００
腹筋	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０	４－Ｄ１０

特記事項
訂正事項

一級建築士　第225432号　　宮澤　昌文
構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二
（一級建築士　第219268号）

一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村 一利

株式会社 馬場設計
山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）

管理建築士 奥村　検図者 宮澤　作図者 松坂

縮尺 A1:1/40 A3:1/80
設計年月日 2012.3

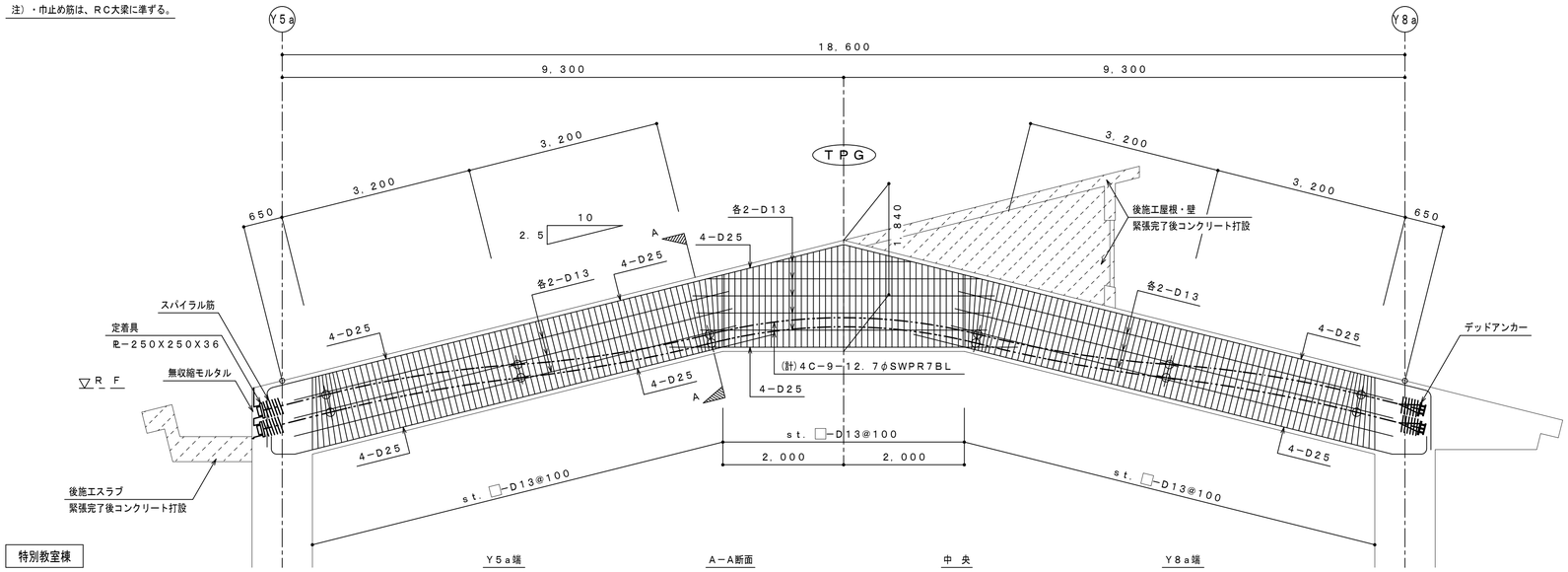
工事名　大月市立大月東中学校校舎新増改築工事
図面名　大梁断面リスト

意匠 構造 電気 衛生 空調

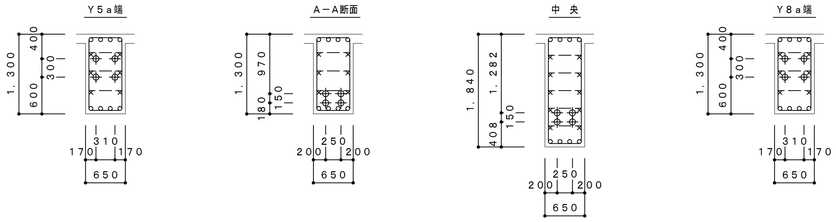
No. S-16

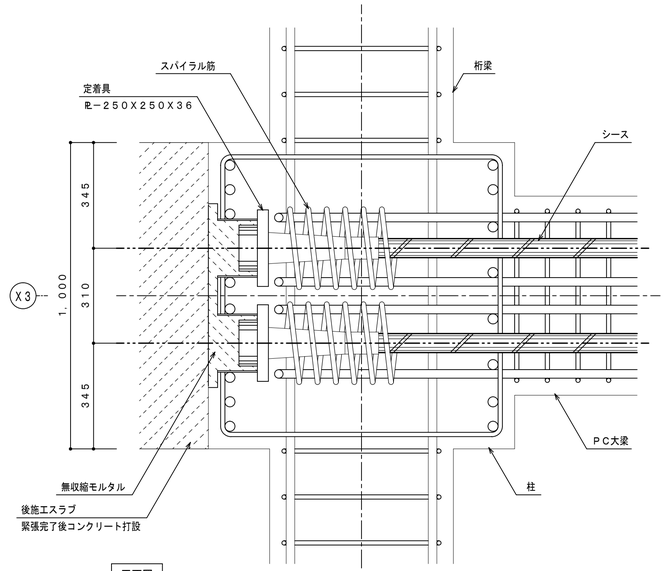
ＰＣ大梁配線配筋図　　Ｓ＝１／５０

注）・巾止め筋は、ＲＣ大梁に準ずる。

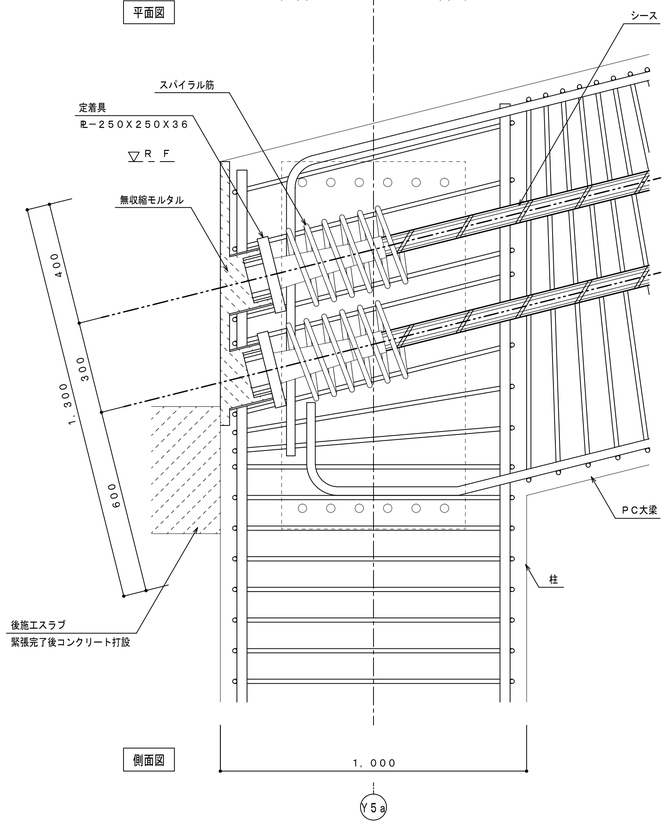


特別教室棟





平面図

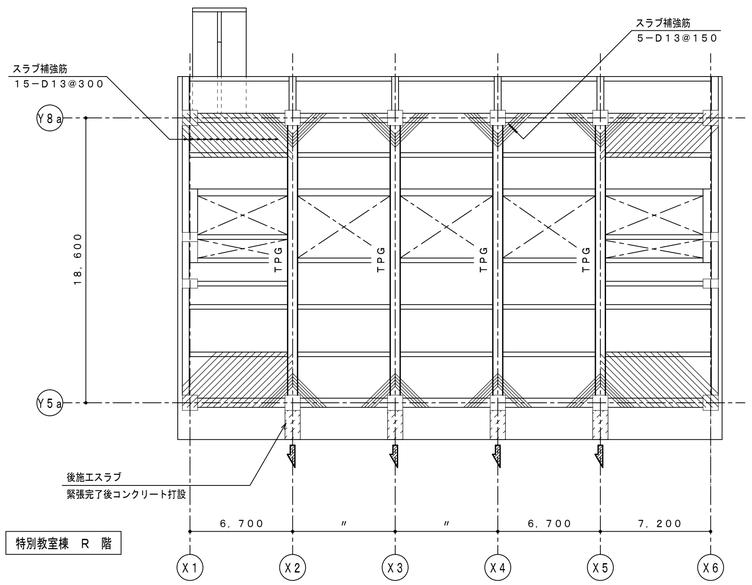


側面図

定着具納まり要領図　　Ｓ＝１／１０

注）・配筋は、各リスト参照のこと。

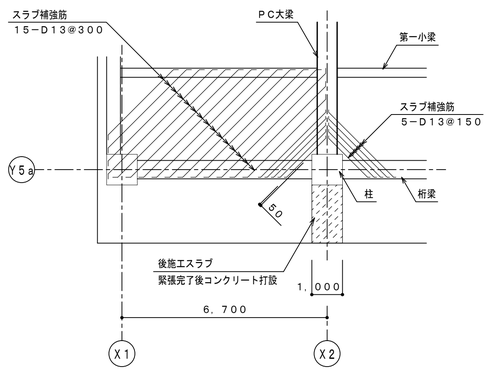
・柱主筋は、定着具及びシースの位置を避けて配筋すること。



特別教室棟　Ｒ　階

KEY PLAN　　Ｓ＝１／２００

注）・ は、緊張端を示す。

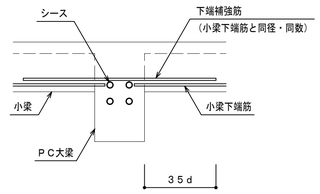


スラブ補強筋要領図　　Ｓ＝１／１００

注）・スラブ補強筋は、スラブ断面の中央に配置すること。

プレストレストコンクリートに関する事項

1．コンクリート設計基準強度	３０　Ｎ／ｍｍ２
2．プレストレス導入時強度	２７　Ｎ／ｍｍ２
3．施　工　上　の　注　意	片引きとする。
1．使　用　鋼　材	９−１２．７φSWPR7BL
2．引　張　強　度	１，６４７　ｋＮ
3．降　伏　荷　重	１，４０４　ｋＮ
4．施工時鋼材緊張力	１，１５２　ｋＮ



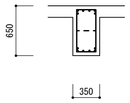
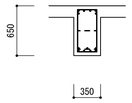
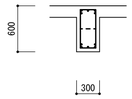
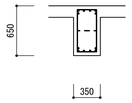
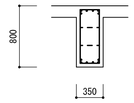
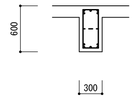
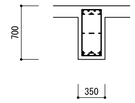
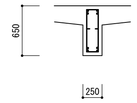
小梁下端筋補強要領図

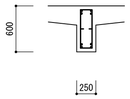
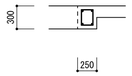
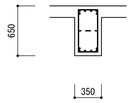
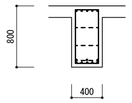
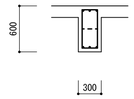
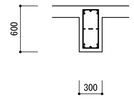
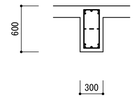
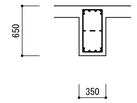
注）・小梁下端筋がシースに当たる場合は、

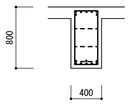
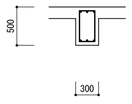
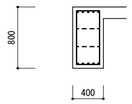
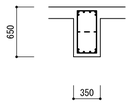
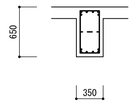
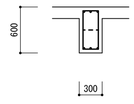
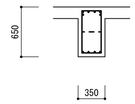
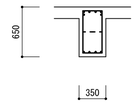
上図のように配筋すること。

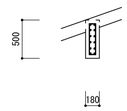
特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 (一級建築士　第219268号)		一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300 (代)	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/100 200 50 10 A3:1/200 400 100 20 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 プレストレスコンクリート梁リスト	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-17

小梁断面リスト　S=1/40　　巾止め筋は　D10 @800以下とする

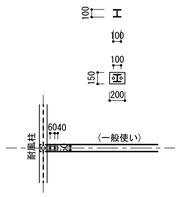
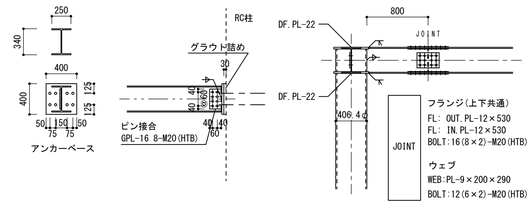
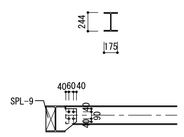
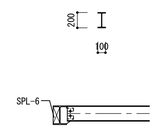
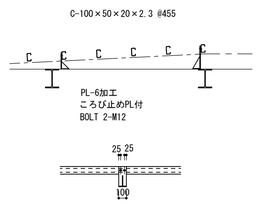
記号	ＴＢ１	ＴＢ２	ＴＢ３	ＴＢ４	ＴＢ５	ＴＢ６	ＴＢ７	ＴＫＢ１
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
上端筋	6－D19	6－D19	5－D19	6－D19	6－D19	5－D19	7－D19	4－D25
下端筋	6－D19	7－D19	5－D19	6－D19	6－D19	5－D19	7－D19	4－D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@150	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	2－D10	2－D10	2－D10	2－D10	4－D10	2－D10	2－D10	2－D10

記号	ＴＫＢ２	ＴＫＴ	ＨＢ１	ＨＢ２	ＨＢ３	ＨＢ４	ＨＢ５	ＨＢ６
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
上端筋	4－D22	2－D22	6－D22	5－D22	3－D19	5－D19	5－D19	6－D22
下端筋	4－D22	2－D22	6－D22	8－D22	3－D19	5－D19	5－D19	6－D22
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	2－D10		2－D10	4－D10	2－D10	2－D10	2－D10	2－D10

記号	ＨＢ７	ＨＢ８	ＨＢ９	ＨＢ１０	ＨＢ１１	ＨＢ１２	ＨＣＢ１	ＨＣＢ２
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
上端筋	7－D22	3－D19	5－D22	6－D19	6－D22	3－D19	6－D22	6－D22
下端筋	8－D22	3－D19	5－D22	6－D19	6－D22	3－D19	4－D22	4－D22
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	4－D10		4－D10	2－D10	2－D10	2－D10	2－D10	2－D10

記号								ＨＷＴ
位置								全断面
断面								
上端筋								全鉄筋　12-D16 ※ 塔屋階段壁に L2定着
下端筋								
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ								□-D10@200
腹筋								

鉄骨断面リスト　S=1/40

記号	ＴＨ１　ＴＨ２		ＨＧＳ		ＨＢＳ１		ＨＢＳ２		母屋
断面						
	部材	H-100×100×6×8	部材	H-340×250×9×14	部材	H-244×175×7×11	部材	H-200×100×5.5×8
	コンクリート接合部	B.PL-16 200×150　ANCHOR 2-M16 L=450	コンクリート接合部	B.PL-25 400×400　ANCHOR 8-M20 L=600	コンクリート接合部		コンクリート接合部	
	ピン接合JOINT	GPL-6 2-M16(HTB)	ピン接合JOINT	GPL-16 8-M20(HTB)	ピン接合JOINT	GPL-9 4(2×2)-M20(HTB)	ピン接合JOINT	GPL-6 2-M16(HTB)

特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 (一級建築士　第219268号)	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300 (代)	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/40 A3:1/80 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 小梁断面リスト　鉄骨断面リスト	意匠 構造 電気 衛生 空調 No. S-18

床版リスト

４辺固定スラブ

符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考
ＴＳ１	１５０	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	教室
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	
ＴＳ２	１５０	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	バルコニー
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	
ＴＳ２Ａ	３００	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	外階段接合部
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	
ＴＳ３	１５０	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	屋根
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	
ＴＳ４	１８０	上	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	ハイサイド屋根
		下	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	
ＴＳ５	１５０	上	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	1階下部ピット床
		下	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	
ＨＳ１	１５０	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	教室
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	
ＨＳ２	１５０	上	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	屋上（設備）床
		下	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	
ＨＳ３	１５０	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	屋根
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	
ＨＳ４	１５０	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	1階下部ピット床
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	

片持ちスラブ

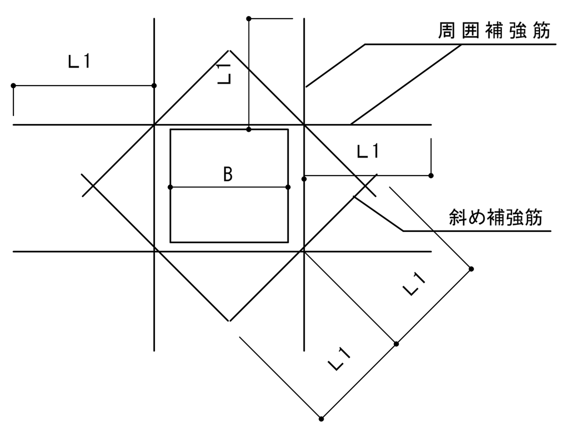
※ 記号なき屋根ケラバの跳ね出しスラブは、隣接４辺固定スラブと同厚・同配筋とする。

符号	厚さ 根元/先端	位置	主筋方向	配力筋方向	備考
ＴＣＳ１	２００/１５０	上	Ｄ１０@１５０	Ｄ１０@２００	小庇
		下	Ｄ１０@１５０	Ｄ１０@２００	
ＴＣＳ２	４００/４００	上	Ｄ１３@１００	Ｄ１３@２００	南面庇
		下	Ｄ１３@１００	Ｄ１３@２００	
ＴＣＳ３	２５０/１５０	上	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	外階段屋根
		下	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	
ＴＣＳ４	１８０/１８０	上	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	ハイサイドライト屋根庇
		下	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	Ｄ１０・Ｄ１３@２００	
ＴＣＳ５	２５０/１５０	上	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	西面庇
		下	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	
ＴＣＳＫ	２５０/１５０	上	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	外階段踊り場
		下	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	
ＨＣＳ１	２５０/１５０	上	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	バルコニー
		下	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	
ＨＣＳ２	２５０/２５０	上	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	屋根庇
		下	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@２００	
ＨＣＳ３	２５０/２５０	上	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	屋根庇
		下	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００	
ＨＣＳ４	２００/１５０	上	Ｄ１０@１５０	Ｄ１０@２００	小庇
		下	Ｄ１０@１５０	Ｄ１０@２００	

土間コンクリート

土間コンクリート（内外一般）	１５０	シングル	Ｄ１３@１５０	Ｄ１３@１５０	砕石t=150
土間コンクリート（ピット床）	１２０	シングル	Ｄ１０@２００	Ｄ１０@２００	捨てコンクリートt=50

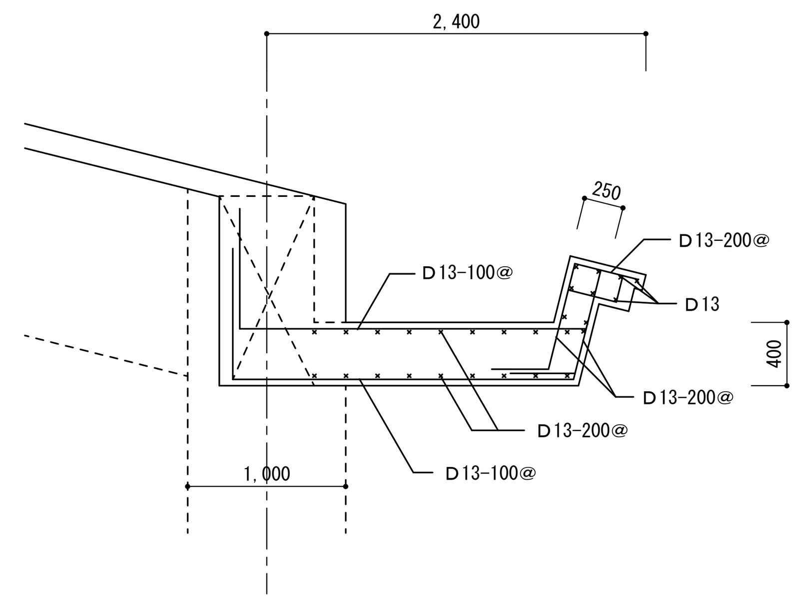
床開口補強



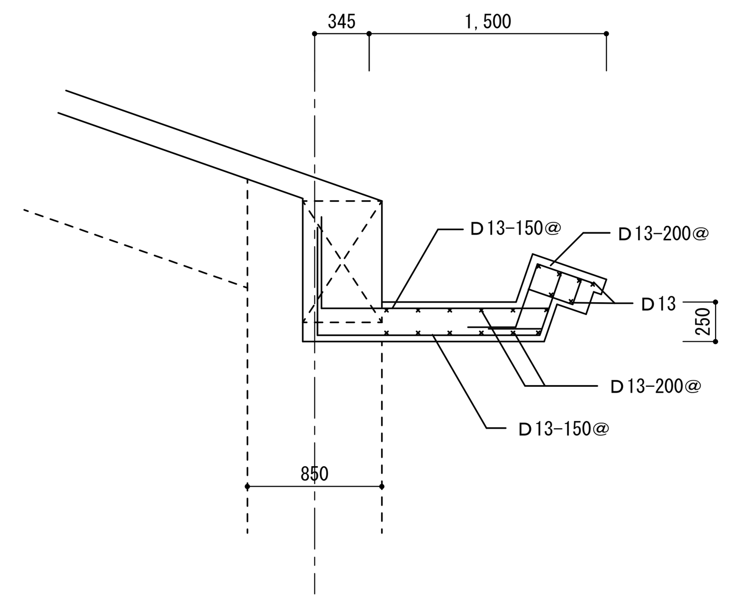
開口寸法	周囲筋	斜め筋
B ＜600	2(上下)-D13	2(上下)-D13
600＜ B ≦900	2(上下)-D16	2(上下)-D16

屋根庇

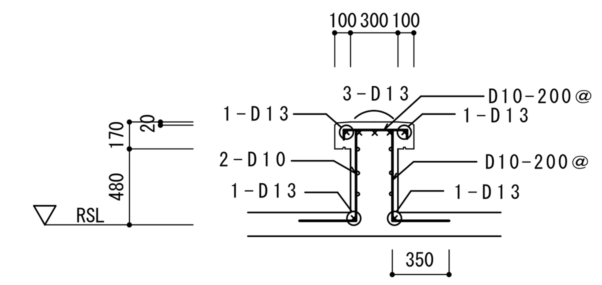
ＴＣＳ２



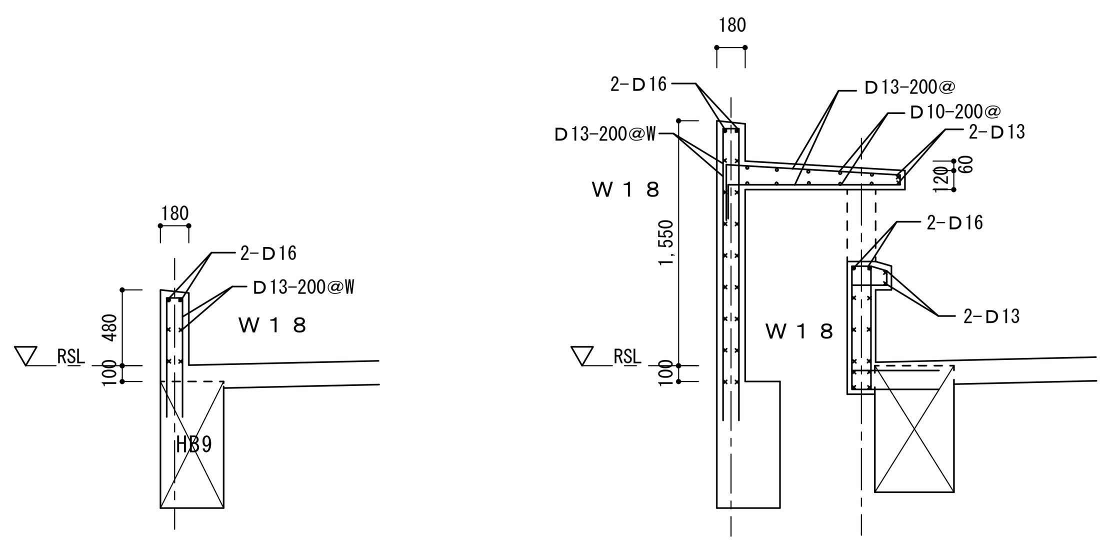
ＨＣＳ２



普通教室棟　設備基礎

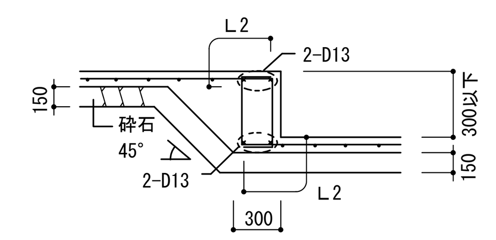


普通教室棟　パラペット　ハト小屋

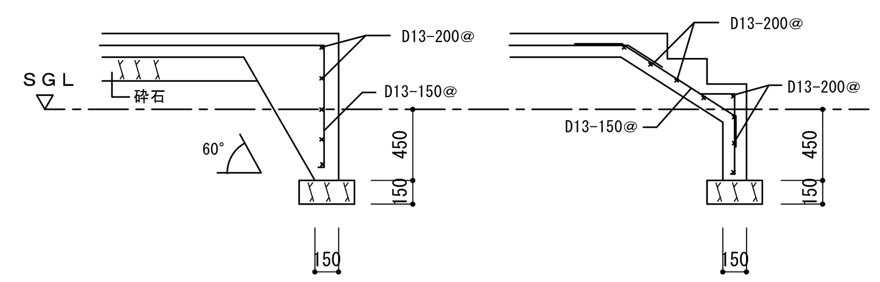


土間コンクリート

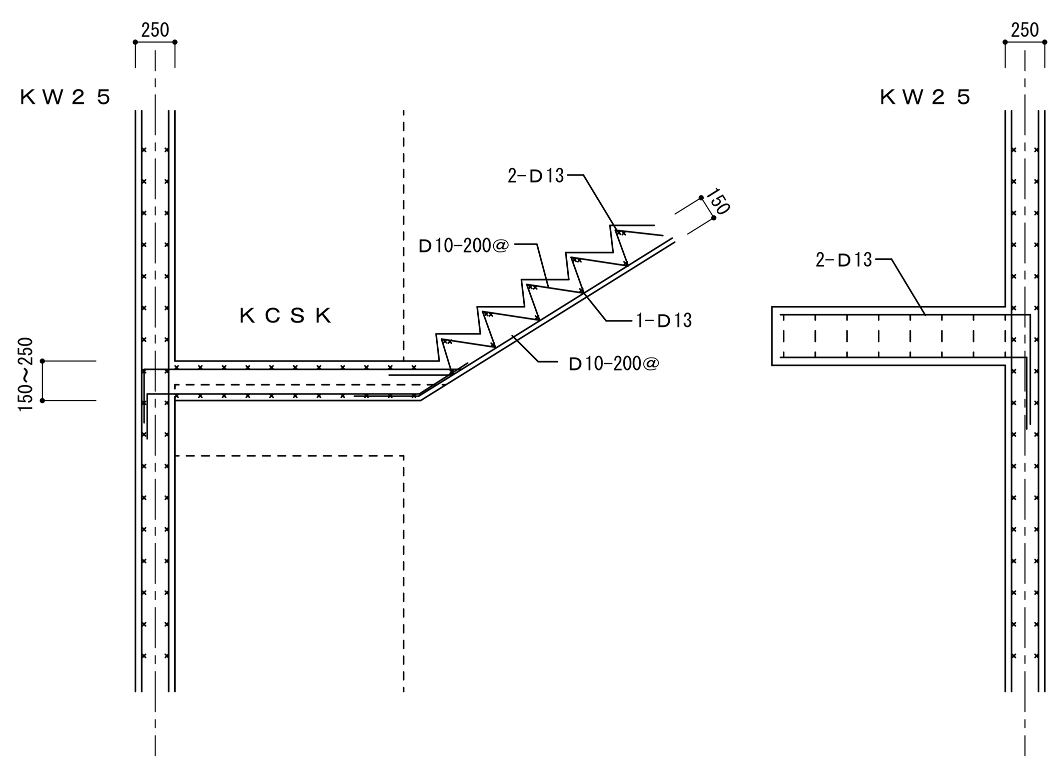
床段差配筋



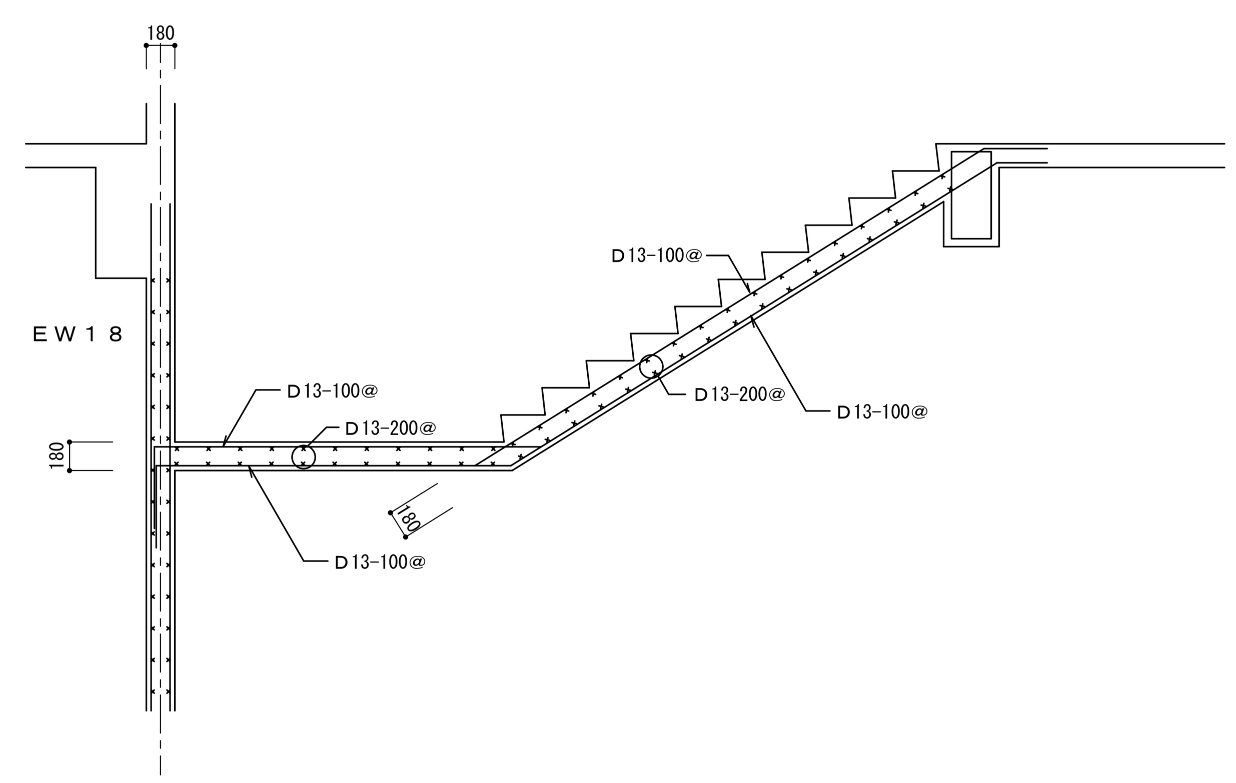
外部土間スラブ端部（端部に梁が無い場所）



特別教室棟屋外階段（片持階段タイプ）



普通教室棟屋外階段（スラブ階段タイプ）



※　屋上への階段は、スラブ断面及び配筋を同様とする。

特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 (一級建築士　第219268号)	一級建築士 登録番号 第148714号 奥村　一利

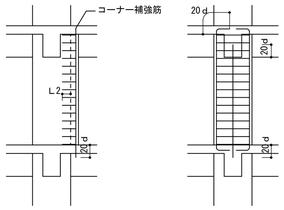
株式会社　馬場設計
山梨県知事登録梨1-20888　TEL. 055-251-2300（代）

管理建築士	検図者	作図者	縮尺	工事名	No.
奥村	宮澤	松坂	A1:1/40 A3:1/80	大月市立大月東中学校校舎新増改築工事	S-19
			設計年月日 2012.3	図面名 床版リスト　階段リスト	

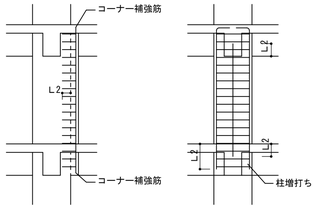
意匠　構造　電気　衛生　空調

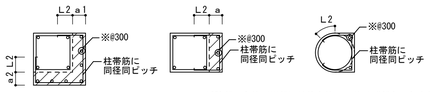
柱増打ち補強配筋

a、a1、a2≦200の場合　　柱増打ち補強配筋は建築工事共通仕様書による



a、a1、a2>200の場合

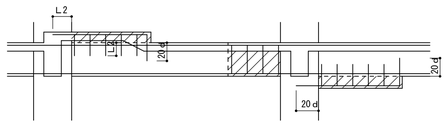




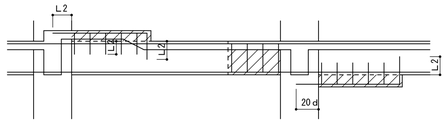
1．補強部の主筋（※部）は柱主筋の１サイズダウンとする。

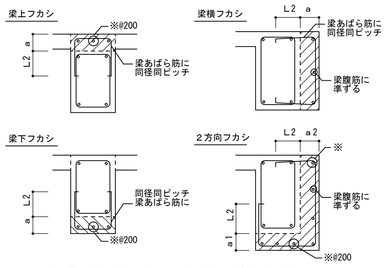
梁増打ち補強配筋

a、a1、a2≦200の場合　　梁増打ち補強配筋は建築工事共通仕様書による



a、a1、a2>200の場合

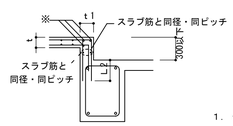




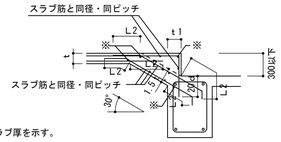
1．補強部の主筋（※部）は柱主筋の１サイズダウンとする。

梁と床スラブに段差がある場合の配筋

t１≧1．５ｔの場合



t１＜1．５ｔの場合

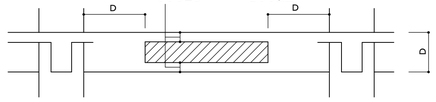


1．ｔはスラブ厚を示す。
2．※印はスラブ筋の１サイズアップとする。

梁貫通孔の補強基準（ＲＣ梁）

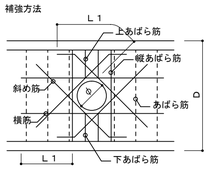
貫通孔の径、配置

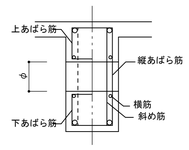
５００≦Ｄ＜７００　１７５以上
７００≦Ｄ＜９００　２００以上
９００≦Ｄ　　２５０以上



注）1．貫通孔は図の　　内に設けるものとする。
　　2．貫通孔の径はＤ／３以下、間隔（孔芯間距離）は３φ以上とする。

補強方法





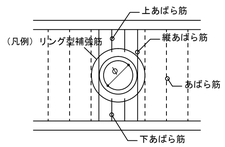
注）1．下表はφ≦Ｄ／３であばら筋がＤ１０@２００～１００、または
　　Ｄ１３@２００～１２５を示し、（　）内はＤ１３@１００の場合の配筋を示す。
　　Ｄ１３@１００を越えるあばら筋の補強は図示による。
　2．下表は各項における補強筋の総本数を示す。
　　例）ｍ－ｎ－ｄの場合
　　ｍ：梁の片面における貫通孔左右または上下補強筋の総本数を示す。
　　ｎ：□は閉鎖型スターラップ、２は梁の両面であることを示す。
　　ｄ：補強筋の径。
　3．＊印は縦筋（フックなしの直線筋）とする。
　4．貫通孔の径がＤ／１０以下かつ１５０未満の場合は、補強を省略してよい。

貫通孔径	縦あばら筋	横筋	斜め筋	上下あばら筋
１００φ	２－□－Ｄ１３ （２－□－Ｄ１６）	２－２－Ｄ１３	４－２－Ｄ１３	２－□－Ｄ１３
１５０φ	２－□－Ｄ１３ （２－□－Ｄ１６）	２－２－Ｄ１３	４－２－Ｄ１３	２－□－Ｄ１３
２００φ	２－□－Ｄ１３ （２－□－Ｄ１６）	２－２－Ｄ１３	４－２－Ｄ１３	２－□－Ｄ１３
２５０φ	２－□－Ｄ１６ （４－□－Ｄ１６）	２－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１９	４－□－Ｄ１３
３００φ ＳＲＣ梁用	２－□－Ｄ１６ （４－□－Ｄ１６）	２－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１９	４－□－Ｄ１３
３５０φ ＳＲＣ梁用	４－□－Ｄ１６ （４－□－Ｄ１６）	２－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１９	４－□－Ｄ１３
５００φ 基礎梁用	４－２－Ｄ１９＊ （４－２－Ｄ１９）＊	２－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１９	６－□－Ｄ１３
６００φ 基礎梁用	４－２－Ｄ１９＊ （４－２－Ｄ１９）＊	２－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ２２	６－□－Ｄ１６

リング型補強組立て鉄筋既製品を使用する場合

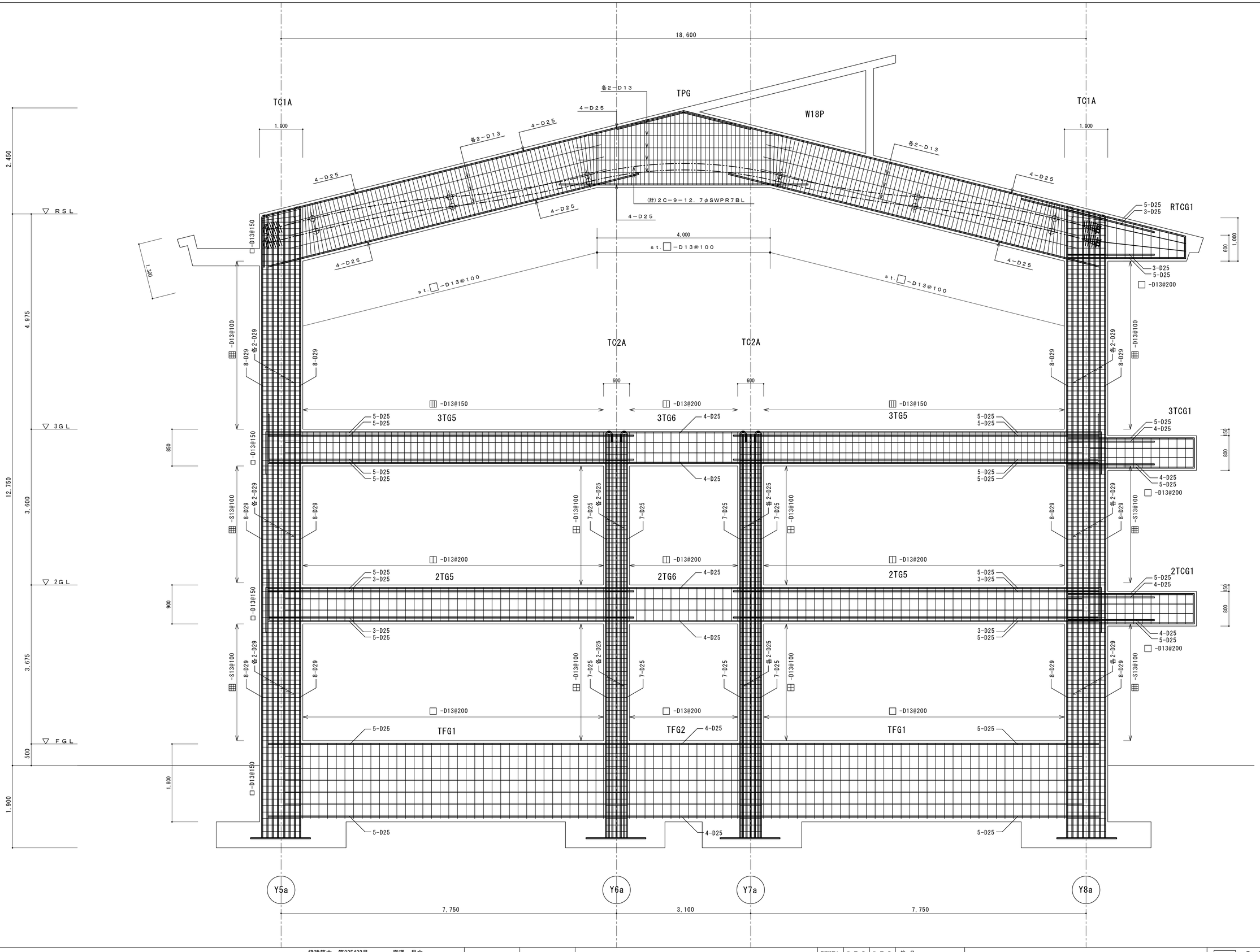
1．有孔梁のせん断終局強度が無孔梁のせん断終局強度と同等以上となるような補強筋量とする。
　なお、有孔梁のせん断強度終局には（財）日本建築センターの評定書に記載の低減係数を
　乗じるものとする。
2．本基準に定める事項のほか（財）日本建築センターの評定等を取得した際の基準に従うもの
　とする。
3．計算外の補強として右図に示す縦、あばら筋、上下あばら筋等を追加する。

リング型　３５０φ以下

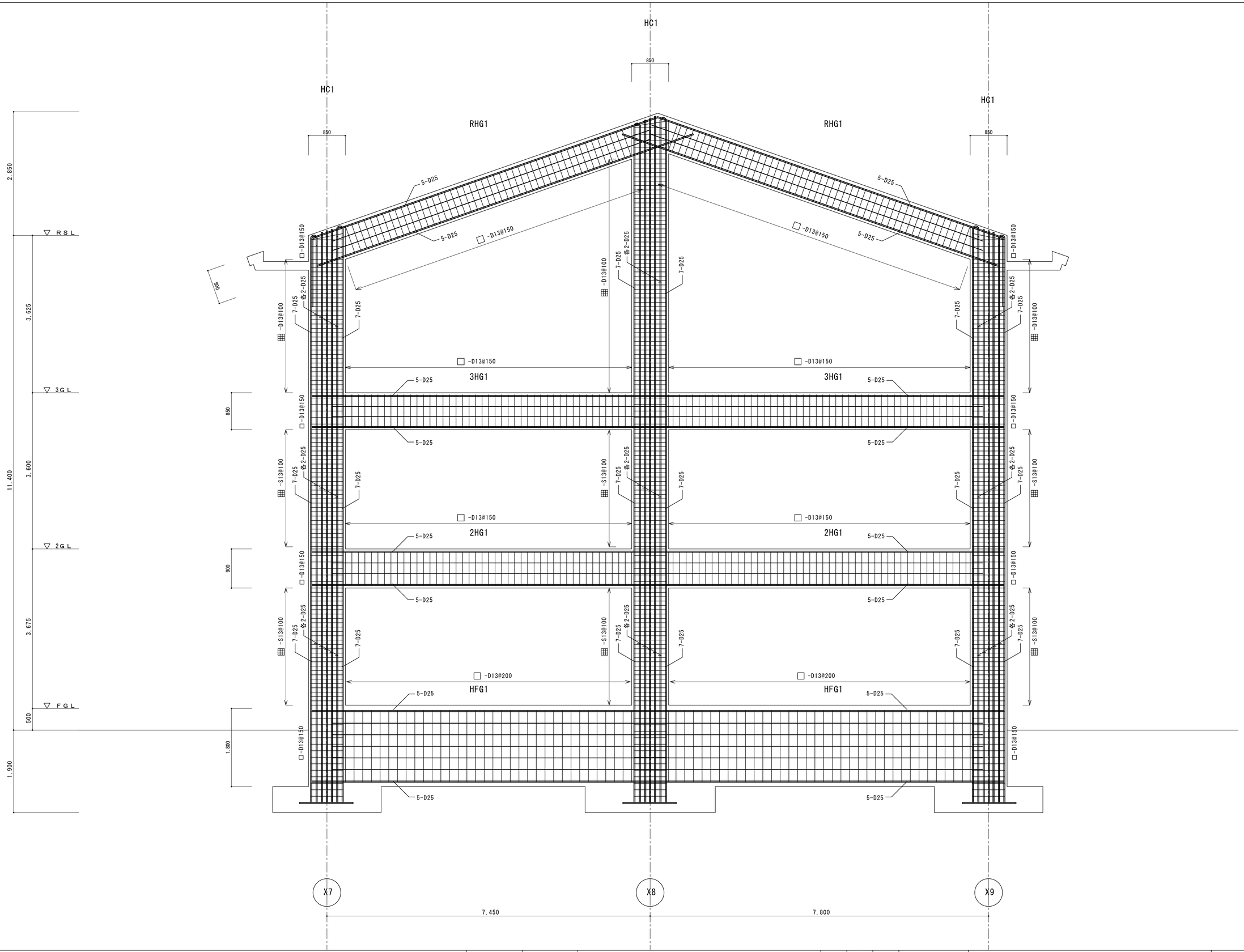


貫通孔径	縦あばら筋	上下あばら筋
１００φ	２－□－Ｄ１３ （４－□－Ｄ１３）	―――
１５０φ	２－□－Ｄ１３ （４－□－Ｄ１３）	２－□－Ｄ１３
２００φ	２－□－Ｄ１３ （４－□－Ｄ１３）	２－□－Ｄ１３
２５０φ	４－□－Ｄ１３ （６－□－Ｄ１３）	４－□－Ｄ１３
３００φ ＳＲＣ梁用	４－□－Ｄ１３ （６－□－Ｄ１３）	４－□－Ｄ１３
３５０φ ＳＲＣ梁用	４－□－Ｄ１３ （６－□－Ｄ１３）	４－□－Ｄ１３

注）1．左表はφ≦Ｄ／３であばら筋がＤ１０@２００～１００、または
　　Ｄ１３@２００～１２５を示し、（　）内はＤ１３@１００の場合の配筋を示す。
　　Ｄ１３@１００を越えるあばら筋の補強は図示による。
　2．左表は各項における補強筋の総本数を示す。
　　例）ｍ－ｎ－ｄの場合
　　ｍ：梁の片面における貫通孔左右または上下補強筋の総本数を示す。
　　ｎ：□は閉鎖型スターラップ、２は梁の両面であることを示す。
　　ｄ：補強筋の径。
　3．貫通孔の径がＤ／１０かつ１５０未満の場合は、補強を省略してよい。



特記事項 訂正事項	一級建築士 第225432号 宮澤 昌文 構造設計一級建築士 第3812号 松坂 裕二 (一級建築士 第219268号)	一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村 一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888 TEL. 055-251-2300 (代)	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/40 A3:1/80 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 架構配筋図 (特別教室棟)	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-21



特記事項 訂正事項	一級建築士　第225432号　宮澤　昌文 構造設計一級建築士 第3812号　松坂　裕二 （一級建築士　第219268号）		一級建築士 登録番号 第 148714 号 奥村　一利	株式会社 馬場設計 山梨県知事登録第1-20888　TEL. 055-251-2300（代）	管理建築士 奥村	検図者 宮澤	作図者 松坂	縮尺 A1:1/40 A3:1/80 設計年月日 2012.3	工事名 大月市立大月東中学校校舎新増改築工事 図面名 架構配筋図（普通教室棟）	意匠 構造 電気 衛生 空調	No. S-22